

九州歴史資料館年報

平成 29 年度



九州歴史資料館

は じ め に

九州歴史資料館は、古くから中国大陆、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにすべく、大宰府及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示、公開してきました。

この年報は、当館が平成 29 年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の第 10 次 5 ヶ年計画の初年次にあたり、政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区についての調査を行いました。また、工業用地造成に関わる発掘調査も行いました。

展示については、常設展示のほか特別展示「霊峰英彦山」及び企画展示やパネル展示、特集展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」・「タベのギャラリートーク」や各種講演会等の開催、その他学習支援、出前講座・九歴ボランティアを中心とした古代体験活動、小郡高等学校、小郡市文化協会やNPO法人と共催した多種のイベントを、年間を通じて展開してきました。様々な事業の実施をとおして、歴史資料館の活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方の御支援をお願いしますとともに、当館を御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

平成 30 年 8 月

九州歴史資料館長

杉 光 誠

目 次

1 事業概要	1
(1) 調査・研究	1
(2) 展示	19
(3) 資料利用	31
(4) 学習支援・博学連携	41
(5) ボランティア	46
(6) 普及・活用事業	49
(7) 広報活動	61
(8) 実習・研修	63
(9) 刊行物	66
(10) 交流事業	67
(11) 協議会等	68
2 九州歴史資料館概要	69
(1) 沿革	69
(2) 施設概要	71
(3) 予算	71
(4) 組織・職員	72
(5) 関係法規	73
3 諸統計	80
(1) 入館者状況	80
(2) 収蔵資料・図書	80
4 日誌抄	81

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩御抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を柱として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究や、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査研究などを、臨機的に組み込みながら調査研究を進めている。

29年度は、かねてより当館が史跡指定にむけた調査の一翼を担ってきた英彦山が、平成29年2月9日に国指定史跡となったことを受けて、指定を記念し、調査研究の成果を目に見える形で広く共有するために、特別展「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」を、8月5日から9月24日までを会期として開催した。展覧会の概要については後述しているので参照いただきたい。先に『英彦山総合調査報告書』（添田町・2016年）に詳しく報告したが、件の調査においては、英彦山の山内に所在する文化財の調査を行ったものであった。しかし展覧会においては、現在の英彦山を紹介するだけではなく、ありし日の英彦山を復元的に浮かび上がらせることも考えたため、山外にある英彦山ゆかりの文化財の調査とその成果を加えることで展示を構成した。

展覧会にあたり新たに調査を行った山外の主な文化財としては、尊像については、福岡県豊前市の求菩提資料館に保管される、求菩提山伝来の仏像群、福岡県八女市の平観音堂の聖観音立像、山口県下関市の吉永八幡宮の薬師如来坐像懸仏等がある。英彦山は平安時代後期には既に大きな勢力をもっていたが、山内に



吉永八幡宮 薬師如来坐像懸仏



平観音堂 聖観音立像

は鎌倉時代以降の尊像しかない。そこで平安時代後期の様相を考えるために、英彦山六峰の一つである求菩提山で平安時代後期の尊像の調査を行ったものである。平観音堂の聖観音立像は、慶長13年（1608）に彦山西山越後が造像した像であり、吉永八幡宮の薬師如来坐像懸仏は、永仁6年（1298）に英彦山からもたらされたものだと墨書をもつ。共に、英彦山における信仰や造形活動、そして英彦山信仰の展開を伝える貴重な文化財である。また、神仏分離以前の英彦山における最大の祭礼である松会について、2巻の絵巻としてあらわした、英彦山神宮所蔵の英彦山大権現松会之図の展示と関わって、長崎県平戸市の松浦史料博物館所蔵の英彦山大権現松会之図、長崎県諫早市の諫早市美術・歴史館蔵の宣度大先達春峯入絵巻についての調査を行った。これらもまた、英彦山信仰の広がり伝える貴重な資料だと言える。これら文化財の詳細については、特別展図録を参照いただきたい。

〇九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

26年度より、九州に偏在している明時代以前の彫刻について調査を始めている。奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかった中国系彫刻の調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、このような調査に着手したものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国製石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、また中国製石造物である宋風獅子までを対象としている。29年度は調査を継続して基礎資料の集積を進めたが、既に報告がなされている作例に関しても、例えば福岡県福岡市東区箱崎の恵光院に安置される、南宋時代の造像だと推定される石造十一面観音坐像のような、今後研究を深めてゆく上で重要な基準となるであろう存在については、改めて精査の上で資料を調えるなどした。



恵光院 十一面観音坐像

その他、山口県長門市において、三隅八幡宮に所蔵される応永年間の大般若経を、これは長門市教育委員会の依頼で調査を行っていた際、その中から、応永34年

（1427）の年紀と「大明温州沙門慶載」の筆写名をもった一巻を見出すことができたことは重大な成果であった。先に当館研究論集42で紹介した通り、長門市の三隅熊野権現社には、宋風獅子の諸作例中の掉尾にあたりと見られる作例がある。この作例については、14世紀初めから15世紀初めの中国で制作されてもたらされたものだとし、温州の慶載が応永年間に奉納した、という付随する伝



三隅八幡宮 大般若経第430巻末尾

承も積極的に肯定していた。今回、応永頃の長門における慶載の存在を押さえることができたことは、大きな意味をもっている。また展示そのものについては、特別展と同じく後述するが、福岡市美術館現蔵で福岡市博多区の堅粕に伽藍をのこす東光院に伝来した仏像を紹介する企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」を、2月10日から4月11日を会期として開催し、その準備を行う中で、東光院に伝来した平安時代後期の十二神将像の調査を改めて調査した。これらの中には、同時代の平安時代後期の九州北部でまま見られる金鎖甲を彫刻であらわす作例が四軀含まれているのであるが、これらについても、南宋時代の神将像ないしは武人像との関係の中で検討を進めているところである。

○福岡県内の絵画調査と研究

九州や福岡県域の歴史や文化の特質を明らかにし、美術のあり方について考える上で、絵画は重大な意義をもった存在である。これまではその中で、仏像と同様に礼拝対象となる仏画については、少しずつ調査研究を重ねてきたものの、例えば寺社にあっても、尊像を核とする空間を荘厳していた絵画作品や、私的な空間や折々の集まりを彩っていた絵画作品などは、本格的に手を着けることができていなかった。商家等に、さまざまな空間をさまざまに彩る江戸時代から近代にかけての絵画作品が、多量に伝わっているという情報をしばしば耳にしながらも、これまでは、必ずしも十分な対応を行うことができていなかった。ただ当館に、29年度より絵画担当の職員が配置されたことをもって、福岡県域における絵画の本格的な調査と研究を開始している。

調査研究の主対象としているのは、福岡藩の御抱え絵師であった尾形家である。御抱え絵師はやはり、地域における絵画制作の大きな柱となる存在だと言うことができ、その調査研究は、江戸時代の絵画制作の諸相を明らかにする上で、重大な課題の一つである。尾形家について改めて考える上で、まずは同じく県立の福岡県立美術館の協力のもと、同館が所蔵する、尾形家絵画資料から取りかかっている。この資料群は、絵画制作において、絵手本となったり、図様の検討資料となったり、作品の下絵となったりと、それぞれさまざまな機能をもった、いわゆる画稿類を中心とするもので、これらについて、とくに江戸時代も早い頃のものに焦点を絞って調査研究を開始したものである。もって、尾形家研究の基盤形成につなげたい。そもそもこの尾形家絵画資料については、『尾形家絵画資料』（福岡県立美術館・1986年）に全貌が紹介されているものの、その後の江戸時代の絵画の研究の深化を背景としながら、ここで再び検討し、また画稿を、調査の中で出現した実作品と対照しながら考えることで、これらの新たな意義を見出し、尾形家研究を新たな段階に引き上げるべく努めたい。しばしは、尾形家きっての名手であり礎を築いた人物の一人である、守房にとくに注目して進めてゆくべく計画している。

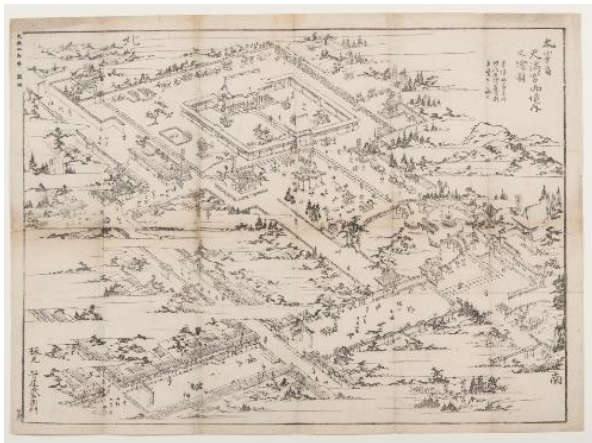
なお、おりしも太宰府市が開始した太宰府絵師調査にも、絵画担当職員は調査員として参加している。29年度は、筑前を代表する絵師の一人である斎藤秋圃を核とする、斎藤家の絵画資料の調査と報告、また全国に名を知られた文人である吉岡拝山を核とする、吉岡家の絵画資料の調査に参加した。江戸時代の絵画は、柱たる御抱え



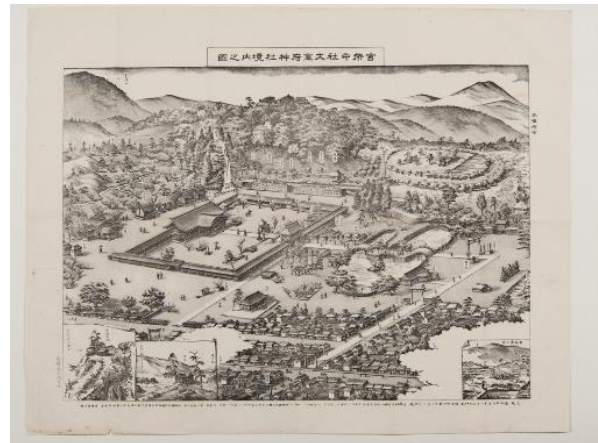
尾形守房写 藤原秀郷龍宮城図

絵師のみによって制作されていたわけではなく、文人画家や町絵師たちのように多彩な人々まで加えた、絵師たちの創作の総体である。それゆえに当然地域で活動している文人画家や町絵師たちについても、調査研究を行ってゆく必要があり、そのような観点から調査に参加しているものである。まずしばらくは、調査が継続している太宰府市における絵師調査に参加してゆきながら、県内各地域の様相についても情報収集を進めて、来るべき総合的な調査に備え、ひいては御抱え絵師を要としながら、福岡県域や九州の江戸時代の絵画について、その総体を構造的に把握することを目指したい。

その他、当館が収集してきた、江戸時代末期から明治にかけての、寺社を中心とし名所なども含んだ、一枚刷りの絵図について、中でも最も多く版行された太宰府天満宮のものを調査し報告した。これらが今後一枚刷りの絵図を考えるにあたり、基準となると考えられるためである。一枚刷りの太宰府天満宮の境内絵図については、当館に13点、そして太宰府天満宮に18点が所蔵されている。これらの全てについて調査を行い、文化年間頃から明治の末頃までの間に、20種が版行されていることを押さえることができた。当館と太宰府天満宮の双方の所蔵品からもれているものがある可能性はあるが、版行期間としても種類としても、これを大きく外れることはないだろう。調査の中で、画面構成としては天満宮とその周辺のみをあらわしたもののから、太宰府周辺の道真公ゆかりの場や名所を、小さく加えて描きこむようになることや、技法としては概ね、木版から銅版、そして石版へという傾向を確認するなどもした。市井一般の人々と新たな美術との接点となり、天満宮周辺の景観の変遷を映す資料となり、広報媒体としての側面からも考察可能なこれらの絵図は、多彩な意義をもった大切な存在だと言える。今後も継続して調査研究を進めてゆきたい。なお、調査研究の成果については、当館研究論集43に報告しているので参照いただきたい。



太宰府天満宮御境内之絵図



官幣中社太宰府神社境内之図

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々について受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するということを、理想の形として心がけている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替え等に伴う一時保管を行うこともある。昨年度規模として最も大きかったのは、一昨年に引き続き、福岡市美術館所蔵の、東光院の仏像を中心とし、近代の彫刻までを

含んだ、彫刻を主とする美術工芸品の数々である。これは28年9月1日から31年3月まで、同美術館がリニューアルに伴う工事等を行っているためである。保管中は、活用可能との取り決めにより、企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」を開催することもできた。ただ昨年度について、最も緊迫した中で受け入れを行ったのは、7月5日の豪雨被害を受けた、朝倉市普門院の木造十一面観音立像の受け入れであった。豪雨により境内は一変し、本堂の床下にまで土砂が堆積し、後背地が不安視される中で、万一を避けるために14日に当館に搬入したものであった。その後、梱包をしたまま十分な慣らしをし、調査や撮影を行った後、3月19日に秋月博物館の特集展「災害の記憶」に出品のため搬出されるまで、収蔵庫内で保管した。今後は九州国立博物館内で必要な手当てがなされた後に、普門院に帰る予定である。もう1件大型のものとしては、糟屋郡篠栗町若杉の、石井坊境内の地藏堂に安置されてきた、等身大の地藏菩薩立像を受け入れている。堂宇と尊像双方の傷みが進んでいるとの相談を受けてのことである。この像については従来から、平安時代に遡る像だとされてきたが、今回間近で実見すると、後世の修復の影響を大きく受けているとはいえ、実際には平安時代前期にまで遡る可能性がある判断された。折を見て調査の上、しかるべき形で報告を行いたいと考えている。

◎考古基準資料調査

○県内山岳霊場遺跡の調査

28年度からは新規に福岡県京都郡苅田町の等覚寺関連の遺跡の調査を開始している。具体的には、青龍窟、千仏不動窟、胸の観音、天狗岩など、等覚寺に関連した遺跡の現地確認及び測量調査である。また、過去に苅田町教育委員会が実施した関連遺跡の出土遺物等についても、現物確認調査を行った。30年度以降も調査を継続するため、詳細については今後報告していく予定である。

一方、糟屋郡宇美町の四王寺山内にあるとされる古代寺院・四王院跡と四王寺山経塚群についても現地踏査と作図作業、出土遺物調査を行い、その成果については、『大宰府の研究』（大宰府史跡発掘調査50周年記念論文集）に「四王院跡と四王寺山経塚群」として掲載する予定である。

また、他班職員の担当ではあるが、考古資料に関して、以下の研究についても行った。

○出土陶硯の調査研究

本研究は、『大宰府政庁周辺官衙跡』の正式報告書刊行業務の一環として資料の抽出を行っている。抽出した資料は、『大宰府政庁周辺官衙跡XI―広丸地区遺物編―』に掲載した。

○手書き遺構実測図のCADデータ化作業と遺構分布の空間分析

本研究は、大宰府政庁跡及び周辺官衙跡の手書き遺構実測図のデジタル画像を基にCADデータを作成し、デジタルデータ上で遺構や遺構間の計測をし、遺構分布の空間分析を行うものである。

29年度は遺構配置を検討する上で参考にするため、常陸国風土記の丘、常陸国府跡、平沢官衙跡、台渡里官衙遺跡群などの現地で資料調査を行った。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

27 年度から、保存管理班と連携しつつ、木簡による大宰府の西海道統治の実態に関する研究を進めている。

また西海道以外の地方出土木簡との比較のため、とくに北陸地方の木簡を集中的に調査した。長岡市立科学博物館において、新潟県長岡市八幡林遺跡・下ノ西遺跡出土木簡、富山県立高志の国文学館では開催中の企画展「官人 大伴家持―困難な時代を生きた良心」において展示された宮城県多賀城跡出土の軍団関係木簡や関連資料を実見した。さらに高岡市役所において、富山県高岡市東木津遺跡出土の荘園関係木簡を調査した。地方出土の様々な木簡を実際に観察することで、書体や加工、作成、廃棄等について、大宰府史跡出土木簡を調査する上で参考になった。

この他、本研究の成果展示として、第 41 回企画展「大宰府を語るサイエンス」（会期：平成 29 年 10 月 7 日～12 月 3 日）を、保存管理班が実施している船原古墳遺物埋納坑出土有機物からみた副葬品埋納の復元的研究と共同で実施した。この企画展にあたり、鹿児島県薩摩川内市京田遺跡出土木簡（鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵）を借用し、鹿児島県外で初めて展示させていただくとともに、X 線 CT スキャナで調査した。内部の状態を確認するいっぽう、九州地方にみられる広葉樹製木簡のデータを得ることができた。

以上の成果については、報告書にまとめて刊行した。

また今年度から、古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究を開始し、出土文字資料や既存の文献史料、大宰府史跡の発掘調査成果をふまえながら、古代大宰府において、様々な職掌を遂行した部内諸司の機能や所在地についての解明を進めている。

さらに、翌年度に開催する大宰府史跡発掘 50 年記念特別展「大宰府への道―古代都市と交通」に備えて、兵庫県神戸市深江北町遺跡出土木簡、熊本県芦北町花岡木崎遺跡・花岡古町遺跡出土木簡・墨書土器・筭書土器、八代市西方下通丸遺跡・宮地池尻遺跡出土筭書土器、鹿児島県始良市柳ガ迫遺跡・外園遺跡出土筭書土器を調査した。あわせて本展の準備のため、出土文字資料ではないが、奈良国立博物館所蔵の重要文化財大宝二年筑前国嶋郡川辺里戸籍断簡や園城寺所蔵の国宝円珍関係文書典籍、東京国立博物館所蔵の国宝元暦校本万葉集、国宝延喜式九条家本等の調査も行った。

ほかに柳川市本町遺跡出土木簡をはじめとする墨書・刻書のある火鉢等の資料について、調査したことをはじめとして、県内の出土文字資料について、赤外線カメラや赤外線スキャナーを用いて文字の解読を行った。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22 年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約 15 万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。29 年度は、特に筑豊工業高校資料の主に昭和初期の史料について調査し、その成果を企画展「炭鉱と学校の昭和史」で紹介した。

○県内所在資料の調査研究

29 年度より、福岡県戦争遺跡調査の一環として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊行史料、特に自治体史の集成が主な作業内容で、県下全域における自治体史の戦争・軍事関連項目の記述、およびこれに関する史料を対象として、網羅的に実施するものである。29 年度は九州歴史資料館

に収蔵されている自治体史を悉皆調査し、各自治体史の戦争・軍事関連記述および史料の集成表の作成を開始した。この集成表の作成については30年度にも引き継がれ、最終的には31年度刊行の調査報告書に、要約したものが掲載される予定である。

この他、26年度から古代都市大宰府の構造と機能、その時代的変遷を明らかにするため、出土文字資料をはじめとする特殊遺物の集成や近世の絵図の調査および明治期の地籍図のデジタル化を行い、既存の大宰府条坊案との照合を進めている。

また、久留米市と協力して、古代・中世の高良大社文書の調査を行った。古代文書については、保存管理班と協力して、蛍光X線分析装置や赤外線スキャナー、実体顕微鏡などを使用した自然科学的調査も実施した。

[学芸調査室保存管理班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロース含浸による強化処置、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。29年度は、7遺跡47点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。29年度は10遺跡297点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市、甘木歴史資料館および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行ったのは、福智町教委収蔵庫等であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。調査により、年間の温湿度挙動の把握を行い、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

29年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	太宰府市教育委員会	水城跡第 62 次調査出土木樋	生物顕微鏡	4. 11
2	唐津市教育委員会	手紙	赤外線スキャナ	7. 24
3	飯塚市教育委員会	井出ヶ浦窯跡群出土須恵器	X 線 CT スキャナ	8. 3
4	田川市教育委員会	上本町遺跡出土遺物、夏吉 21 号古墳出土三累環頭柄頭	X 線 CT スキャナ	8. 31
5	北九州市教育委員会	旧式太鼓	ファイバースコープ	8. 31
6	久留米市教育委員会	筑後国府跡出土遺物	X 線 CT スキャナ 蛍光 X 線分析	12. 14
7	玉名市教育委員会	大原遺跡出土小形仿製鏡	X 線 CT スキャナ	1. 9
8	新修宗像市史編集委員会	玉および皇朝十二銭	X 線 CT スキャナ	1. 18

上記のほか、館蔵資料については、随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

(一社)文化財保存修復学会災害調査部会に委員として出席した。また、博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談、視察には随時対応している。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成 24 年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業や X 線 CT 調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成 26 年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度は、これまで撮影した CT データの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。また、遺物の科学的調査、馬冑、鉄釘、鉄製農工具、ガラス装飾付金銅製辻金具・雲珠のクリーニング作業 134 点、を行った。



クリーニングを終えた杏葉

◎平成 29 年 7 月九州北部豪雨による被災文化財救援への対応

29 年 7 月に発生した九州北部豪雨災害では、多くの文化財が流出、崩壊、水損などの被害を受けた。これらの救援活動を、朝倉市、東峰村の要請により、職員を派遣し、行った。また緊急避難した文化財のうち、水損した文書の応急的保存処置を開始した。具体的な内容は以下のとおりである。

(1) 被災地への派遣による巡視・緊急措置への協力

現地本部が甘木歴史資料館に設置され、職員を駐在、現地派遣し、巡視、緊急避難等の対応にあたった。具体的には、文化財所有者への訪問、聞き取り調査、資料保全に関する案内配布、現地の巡視、被災資料の現地での養生、緊急避難、一時保管、各種情報収集である。派遣した職員は、文化財保護課職員とあわせ、延べ99名である。

(2) 緊急避難した水損文書の応急的保存処置

被災し、緊急避難した水損文書については、甘木歴史資料館にて一時保管された後、当館に搬入して処置を開始した。内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂・カビのクリーニング、折れ・シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。本年度は4件対応しており、今後、今年度を含め、3ヵ年で処置を行う予定である。なお、真空凍結乾燥法による処置について、当館の設備機器能力を超えた分量については、福岡市埋蔵文化財センターと連携し、処置を行った。



処置作業風景

(3) 水損資料ワークショップの開催

九州北部豪雨災害により、文書等が水損する被害が発生しているが、これらの対応の事前準備は急務ともいえる。このような水損資料の処置は迅速に処置を行えるかどうか鍵となり、有事の際の処置の流れや、具体的な対処法について事前に知識をもっておくことがきわめて大切である。

こうした背景から今後、災害により生じた水損資料の安定化処置を進めていくにあたり、当館と、国立文化財機構が協力して水損資料の応急処置、安定化処置について、下記のとおりワークショップを開催した。参加者は、県内博物館・美術館・図書館・文書館および市町村職員33名であった。

主 催：九州歴史資料館・国立文化財機構

開催日時：平成30年2月14日（水）～15日（木）

会 場：九州歴史資料館 研修室（福岡県小郡市三沢 5208-3）

対 象：福岡県内の博物館・美術館等の学芸員、文化財担当職員

募集人数：30人 ※申込者が定員を超えた場合、申込み順にて参加を決定する

経 費： 実習に係る経費は無料。参加に係る旅費は、参加者の負担とする

1・プログラム

1日目：2月14日（水）

13：30～13：40 開会挨拶

杉光 誠 （九州歴史資料館長）

岡田 健 （国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室長）

■講義

13：40～14：40 「水損資料の救出から安定化処置概論」

講師：奈良文化財研究所 高妻 洋成

14：40～15：40 「カビを中心とする生物被害への対応」

講師：九州国立博物館 木川 りか

15：40～15：50 休憩

■報告

15：50～16：20 「九州北部豪雨に際しての被災文化財への対応」

講師：福岡県教育庁総務部文化財保護課 國生 知子

16：20～16：50 「九州北部豪雨により被災した資料の応急処置」

講師：九州歴史資料館 加藤 和歳

2日目：2月15日（木）

10：00 実習の趣旨についての説明

講師：小泉恵英 （九州国立博物館）・高妻洋成 （奈良文化財研究所）

■講義

講師：NPO法人 書物研究会

10：10～11：10 水損資料の応急処置の実際

■実習

講師：NPO法人 書物研究会

11：10～12：10 水損資料の応急処置

12：10～13：10 休憩

13：10～16：00 水損資料の応急処置

16：00 終了

【文化財調査室文化財調査班】

文化財調査班の主たる業務は国の機関や県及び外郭団体事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。加えて、29年度より3ヵ年をかけて基礎的な調査として「福岡県戦争遺跡調査」（国庫補助事業）を開始した。また、実務経験の少ない県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「福岡県文化財担当職員研修」を実施した。

◎発掘調査及び報告書作成

29年度の発掘調査は、沖端川河川激甚災害対策特別緊急事業関係（福岡県県土整備部からの執行委任事業）1件、久留米・うきは工業用地造成事業関係（福岡県企業局からの受託事業）1件の2件である。

報告書は、伊良原ダム建設関係2冊、広域下水道関係1冊、河川関係2冊、高校建替1冊、県道1冊（いずれも執行委任事業）の計7冊を刊行した。

以下、29年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、詳細については現在整理中であるため、概要を述べることとする。

○沖端川河川激甚災害対策特別緊急事業

・保加町遺跡（柳川市）

保加町遺跡は、柳川城下町の北端に位置し、久留米柳川往還の出橋御門付近に位置している。

27 年度に本発掘調査を実施した地点の東にあたる。遺構面は 3 面を確認した。第 1 遺構面は 18 世紀後葉から 19 世紀前半で、礎石を確認しているが、その後の開発により建物の規模を復元するには至らなかった。第 2 遺構面は 18 世紀前半から中葉にあたる。調査区南側で礎石建物 1 棟を確認した他、小型の窯跡 2 基などを確認した。第 3 遺構面は 17 世紀代に遡ると見られる。大型の土坑や建物跡と見られる柱穴、沖端川の旧河道と思われる地形変換線などを確認している。今回の調査結果および 26・27 年度調査分を合わせて 30 年度に調査報告書を刊行する予定である。



保加町遺跡 3 次調査全景（北上空から）

○久留米・うきは工業用地造成事業

・鷹取ヒゲジロ遺跡（久留米市）

鷹取ヒゲジロ遺跡は、耳納山麓から北に延びる扇状地の先端部にあたり、北側で巨瀬川が西流する。

東側には周知の埋蔵文化財包蔵地で、古墳時代の集落や前方後方墳が確認された竹重遺跡が隣接する。

29 年度は前年度に引き続き本発掘調査を実施した。巨瀬川の氾濫や後世の開発等による削平を受けている影響によるものか調査面積に比して遺構の密度は希薄であったが、弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした遺構が確認された。主な遺構は竪穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 48 基以上、溝 30 条以上等である。今回の調査結果および 28 年度調査分を合わせて 30 年度に調査報告書を刊行する予定である。



ヒゲジロ遺跡全景（南上空から）

平成 29 年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
保加町遺跡	柳川市保加町	70	171006-171206	集落	河川激甚災害対策
鷹取ヒゲジロ遺跡	久留米市田主丸町鷹取	18,600	170412-180228	集落	工業用地造成

作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
伊良原Ⅶ	福岡県文化財調査報告書第 261 集	ダム建設
伊良原Ⅷ	福岡県文化財調査報告書第 262 集	ダム建設
彼岸田遺跡	福岡県文化財調査報告書第 263 集	広域下水道
上町遺跡 2 次	福岡県文化財調査報告書第 264 集	河川激甚災害対策
本町遺跡	福岡県文化財調査報告書第 265 集	県立高校校舎建替
片島遺跡・山城遺跡	福岡県文化財調査報告書第 266 集	河川床上浸水対策
津島福市遺跡	福岡県文化財調査報告書第 267 集	県道建設

◎福岡県戦争遺跡調査

明治維新による近代化が始まってから 150 年、太平洋戦争が終結してから 72 年が経過し、土地に残された近代の遺産や戦争の痕跡も急速に失われ、戦争に関する人々の記憶も次第に薄まりつつある。そのような中で福岡県では、県内に所在する近代以降の戦争遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととした。29 年度から基礎調査をはじめ、平成 31 年度の 3 ヶ年で報告書としてまとめる計画である。

初年度となる 29 年度は、基礎情報を収集するため、県内各市町村へ戦争遺跡の所在について照会するとともに、教育庁文化財保護課を事務局として有識者 5 名からなる「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」を立ち上げ、第 1 回の委員会を 10 月 7 日（土）に開催した。委員会では調査の基本方針や調査の進め方などを確認した。

福岡県戦争遺跡調査指導委員会委員名簿（平成 30 年 3 月 31 日現在）

	氏 名	所属等	専 門
委員長	有馬 学	福岡市博物館長 九州大学名誉教授	日本近代史
委 員	三輪 宗弘	九州大学付属図書館教授	日本近代史
	土田 宏成	神田外語大学教授	日本近代史
	齋藤 達志	陸上自衛隊幹部学校教官	戦史
	伊藤 慎二	西南学院大学国際文化学部准教授	考古学

【文化財調査室調査研究班】

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。29 年度は、大宰府史跡の調査として発掘調査 5 件を行い、報告書 1 冊を刊行した。

◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

29 年度は、大宰府史跡発掘調査第 10 次 5 ヶ年計画の 1 年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点調査を 3 ヶ所で実施した。このうち第 228 次調査・第 230 次調査については継続調査であり、表中の面積は合計で示

している。また、観世音寺子院跡の1カ所、大宰府政庁前面官衙跡前面広場地区の1カ所について、確認調査を実施した。

平成29年度大宰府史跡調査一覧

調査回数	調査地区略称	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第228次調査	6AYT-A-J・I	460.0	151009 ～ 171218	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第230次調査	6AYT-A-J	578.5	161108 ～ 180313	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第236次調査	6AYT-A-F	895.31	170724 ～ 180328	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第237次調査		4	180109 ～ 180124	観世音寺子院跡
大宰府史跡第238次調査	6AYM-A-T	27	180125	前面広場地区

報告書は、大宰府政庁周辺官衙跡のうち広丸地区の調査成果報告の2冊目として『大宰府政庁周辺官衙跡X I ―広丸地区遺物編―』を刊行した。

○大宰府史跡第228次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、大宰府政庁跡の西側にのびる蔵司丘陵の南西部平坦地に位置する。蔵司地区は、対象面積が3万㎡に及ぶため、21～25年に全域を対象として確認調査を行い、その成果をもとに25年度に「大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区の重点調査の方針」を策定した。これにもとづき、26年度より重点調査を開始している。26・27年度は、大型礎石建物SB5000の構造解明にかかる調査を実施し、これに引き続いて228次調査として27年度からSB5000の南側に広がる平坦面を対象として調査を実施した。

28年度までの調査の結果、SB5000に先行する3棟の掘立柱建物群が確認された。これら掘立柱建物3棟は柱筋が揃うことから、7世紀末～8世紀初頭段階、蔵司地区の丘陵上に規則的な建物配置をもつ官衙が出現していた可能性がある。

29年度の調査は、前年度に対象地北西部の整地層の状況を確認するため一部掘り下げたところ、整地層下層の茶褐色土を切り込む複数の柱穴群を検出したため、調査区を拡張して、これらの柱穴群より構成される可能性のある建物等の配置や構造の確認を行った。

前年度確認した整地層下層の茶褐色土を切り込む、一辺50～60cm程度の方形の掘方と直径15cmほどの柱痕跡をもつ柱穴群については、それぞれ東西方向に2間以上延びる柵跡1列と、東西に並ぶ柱穴2基からなる何らかの施設と判断した。

柵跡及び柱穴2基はいずれも、縄目瓦が主体の整地層上層の下に、瓦を含まない古墳時代の須恵器・土師器が混じる整地層下層を掘り込んでお



大宰府史跡第228次調査 柵跡・柱穴群

り、大型礎石建物 SB5000 以前に位置付けられる可能性がある。今後遺物整理を進め、時期等を確定する予定である。

○大宰府史跡第230次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、蔵司地区官衙跡の中央南側に位置する。

蔵司地区の中心建物と推定される大型礎石建物 SB5000 の東隣平坦地に位置し、これまでの確認調査により古代の整地層が存在することが判明している。さらに、昭和初期の古写真にも礎石群が写っていることなどから、建物群の構造や変遷、年代等を把握するため、28・29年度の2カ年にわたる調査を実施した。

調査では、南北に並ぶ2棟の礎石建物が見つかった。北側の礎石建物 SB5110 は一部が調査区外に及ぶものの、礎石4石が原位置付近に残っており、他の礎石抜取穴の配置などから南北5間、東西3間の総柱建物と推定でき、高床式倉庫と考えられる。柱間は桁・梁ともに2.4m（8尺）の等間で、規模は桁行12.0m、梁行7.2m、床面積86.4㎡と推定できる。また後世の削平が著しいが、建物の周囲には雨落溝の一部が遺存する。



大宰府史跡第230次調査 SB5110（南から）

南側の礎石建物 SB5120 については、礎石は全く遺存していないが、南北5間、東西3間となる礎石抜取穴の配置を確認した。柱間が桁間・梁間ともに2.4m（8尺）の等間とみられ、北側の礎石建物 SB5110 と柱間が共通すること、両者の柱筋が通ることから、同じ南北5間、東西3間の総柱建物と推定され、高床式倉庫と考えられる。建物の西側及び北側の一部に幅1.4～1.7mの雨落溝が残るが、後世の削平のため深さ13cm程度と非常に浅い。



大宰府史跡第230次調査 SB5120（上から、上が西）

南北の礎石建物2棟は柱間が2.4mの8尺等間とみられ、政庁周辺官衙跡や大野城、基肆城などで見つかっている同構造の建物の柱間よりも1尺広く、全体に一回り大きい規模の建物であることも注目される。建物の時期は、現在遺物の整理中であるが、礎石抜取穴、雨落溝、瓦溜りなどから出土する遺物から、その年代の上限は8世紀代で、下限は10世紀代に下るとみられる。

このほか、調査区北半及び南半中央部で古代の整地層を確認した。遺構面にみえる整地層は瓦を含んでいるが（上層整地）、その下層で瓦を含まない整地層を確認した（下層整地）。礎石建物2棟は上層整

地を切り込むことから、上層整地は8世紀代を上限とするとみられ、下層整地は瓦葺き建物が出現する8世紀代より以前の段階の整地とみられる。なお、調査成果を受けて平成30年1月14日（日）に一般県民等を対象として現地説明会を開催し、約120名の参加があった。

○大宰府史跡第236次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は蔵司丘陵南東部に広がる広い平坦地で、第230次調査区の東隣に位置する。これまでの確認調査では、古代の礎石抜取穴や瓦溜り、整地層、近世の溝などが見つかっており、近世の絵図にも多数の礎石が描かれているため、古代大宰府関連の建物群が展開していたと推測されている。ただし、対象面積が広く調査地点を絞り込むために事前にレーダー探査を行い、地下遺構の有無や位置、深さなどを検討することとした。

レーダー探査の結果、調査区の北・南の2箇所で遺構と見られる反応が確認された。これを踏まえて南側の発掘調査を行った所、東西に並ぶ2棟の礎石建物を検出した。東側の礎石建物は、礎石抜取穴の配置から東西は少なくとも4間、南北は3間に復元される東西棟である。礎石は全て抜き取られているが総柱構造とみられ、柱間が東西3.6m、南北3.0mと広く、第230次調査で見ついている高床式倉庫とは異なる構造である。西側の礎石建物との間に幅1.2～1.5m程度の南北溝があり、両建物が雨落溝として共有しているが、東側の礎石建物の側にのみ石列が残っており、この建物は低い基壇を伴っていたと考えられる。北側には幅2.0mほどの溝が東西にのび、雨落溝と考えられるが、西側礎石建物の側まで直線的に続く。

西側の礎石建物は、礎石抜取穴の配置から東西7間の建物と推定される。柱間は現状で桁間3.6m、梁間2.7mを測る。建物の南北規模は未確認であるが、建物の南側の空間がそれほど広くないことか



大宰府史跡第230次調査現地説明会



大宰府史跡第236次調査 礎石建物群（北西から）



大宰府史跡第236次調査 雨落溝（西から）

ら、南北3間の可能性が考えられる。西側の幅1m程度で残る溝が雨落溝の可能性はある。

現在、出土遺物の整理中であるが、土器や瓦の状況を踏まえると、これら2棟の建物の年代は第230次調査礎石建物2棟と同じく下限は10世紀代、上限は8世紀代と推定される。

また近・現代の攪乱の断面等で確認をしたのみであるが、古代の整地層下に複数の掘り込みを確認した。うち1基は1辺1m程度の規模で柱穴となる可能性がある。

○大宰府史跡第237次調査（観世音寺子院跡）

観世音寺背後に位置する山ノ井池の排水施設改修工事の申請が提出されたことを受け、掘削予定箇所付近の地下遺構の有無および遺構面までの深さなどの情報を得るため、太宰府市教育委員会職員の立会いのもと、確認調査を実施した。

調査地は谷筋東側の丘陵斜面裾部にあたり、地形は東から西に向かって傾斜する。斜面上位はため池の水を落とした状態で地山が露出しており、斜面途中より下は斜面上位からの崩落土砂が、また下位にはため池の滞水に起因する水性堆積の土砂が地山を覆う状況であった。

確認調査の結果、地山である風化花崗岩を掘り込む、一辺60cmほどの略方形プランの土坑を検出した。付近の堆積土砂から石塔の部材などが多く出土しており、検出した遺構は中世墓の墓壇の可能性はある。これを受けて工事側と遺構保存の協議を行い、設計変更の結果、保護層を敷設し、埋め戻しを行った。



大宰府史跡第237次調査 下段平坦面

○大宰府史跡第238次調査（前面広場地区）

大宰府政庁の前面に広がる、いわゆる政庁前面官衙域の中でも中央に位置する前面広場地区は、これまでの発掘調査によって幅160mを超える規模の空閑地が広がっており、その中央北西寄りには「朝集殿」と目される四面廂の大型掘立柱建物SB2300があることが明らかとなっている。

今回SB2300の南側1/3ほどの範囲に重複するように集合住宅の建て替えが計画されたことから、確認調査を実施した。調査の結果、SB2300の柱穴を検出したため、これを避ける形で杭を配置することで事業者と協議し、設計変更を行い、遺構の保存を図った。



大宰府史跡第238次調査 SB2300

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調

査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに5ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

平成27年度から筑紫野市教育委員会が実施している前畑遺跡の発掘調査で、古代のものと思われる土塁状遺構が確認され、大宰府都城との関連が指摘されたことを受け、九州歴史資料館では28年度から関係自治体と連携し、関連遺構の調査を行うこととした。そのため、29年度は臨時で8月3日（木）に指導委員会を開催し、筑紫野市前畑遺跡で確認された土塁状遺構の調査内容と、今後九州歴史資料館が行う調査方針について審議を得た。

また、九州歴史資料館が計画的に進めてきた大宰府史跡をはじめ、関連する調査や整備事業に関しては、10月24日（火）・25日（水）の両日に指導委員会を開催し、審議を得た。29年度は第10次5ヶ年計画の1年次にあたり、28年度の調査成果、29年度事業の中間報告、大宰府史跡の調査研究方針等について審議を得た。

委員は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿（平成30年3月31日現在）

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学大学院教授	歴史学
委 員	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学

○平成28年度熊本地震の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係る専門職員の派遣

28年4月に発生した熊本地震からの復旧・復興に関連した再開発が本格化し、熊本県の被災地域では、それに関連した遺跡の有無の確認のための予備調査や記録保存の発掘調査の急増に対応する必要性が生じた。文化庁、熊本県からの要請を受け、福岡県からの埋蔵文化財専門職員派遣として、上下半期各1名ずつの当館職員が熊本県教育庁文化課へ派遣され、佐賀県、大分県、鹿児島県からの派遣職員とともに支援業務を行った。具体的な支援内容は、以下のとおりである。

(1) 熊本県実施の予備調査・記録保存の発掘調査の協力・支援

被災国道の迂回路線建設や区画整理と連動した県道拡幅等の事業対応で、熊本県教育庁文化課自体が主体となる予備調査・発掘本調査に従事した。予備調査では遺跡の所在する範囲の迅速な確認を行い復

興事業の進展に寄与するとともに、本発掘調査に当たっては、地域の歴史に特徴的な遺跡の記録保存を実施した。

(2) 熊本県内被災市町村の予備調査・記録保存の発掘調査の協力・支援

本来各市町村が主体となり埋蔵文化財の行政対応をする各自治体の事業（災害公営住宅建設、災害移転地造成、区画整理等）や民間開発について、その体制では対応が困難な場合に、それぞれの支援業務に当たった。各地の特徴ある遺跡の本発掘調査を行い、中には首長判断により保存に至った遺跡もある。

なお、(1)・(2)ともに本発掘調査では現場説明会を実施して、文化財普及業務にも従事した。



熊本県での発掘調査風景

(2) 展 示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史（とき）の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得を意図して約2ヶ月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでもらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。第1展示室では、調査研究および展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示のテーマをより深化もしくは特化した内容の特集展示を24年度から開催している。29年度は、特集展示「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」（4月25日～6月18日）や、推定金光寺跡出土品が福岡県指定文化財となったことを記念した特集展示「骨を蔵める—古代・中世の火葬骨壺—」（5月30日～7月23日）、特集展示「懐かしの旧福岡県庁」（5月30日～7月23日）の3回の開催となった。また、甘木歴史資料館との連携展示「博多絞り」（12月8日～平成30年2月4日）も行った。

常設展示の内容をより深く理解して頂くための「九州歴史資料館展示解説シート」は、特集展示および企画展の開催にあわせて新規に制作し、充実を図っている。さらに展示内容や歴史的な背景をより深く理解してもらうためにプレミアムフライデーにあわせて「夕べのギャラリートーク」を開催するほか、『教育福岡』の連載記事やケーブルテレビなどを通じて展示の紹介を行っている。また、昨年度、日本生命財団の助成をうけて発刊した常設展示図録『交流のかなめ ふくおか 九州歴史資料館展示案内』を県内の小・中学校および公立図書館に配布した。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ

近代Ⅱ 絵図の世界

○特集陳列「博多絞り」

会期：平成 29 年 12 月 8 日（金）～平成 30 年 2 月 4 日（日）

会場：九州歴史資料館 第 1 展示室（高取焼コーナー）

主催：甘木歴史資料館

共催：九州歴史資料館

内容：分館支援をかねた連携事業として開催したものである。甘木歴史資料館では朝倉市の伝統産業および工芸である「甘木絞り」の調査を継続的に行っている。H29 秋期企画展では「九州絞り大全～甘木絞りと博多絞りを中心に～」と題して、その芸術性の高さに注目した展示を行い、一般に広く紹介してきた。「甘木絞り」は江戸時代後期にはじまり、明治大正期には「博多絞り」とともに「筑前絞り」の名で一世を風靡し、その生産量は日本一位になるほどであった。本展示では近年発見された武田虎雄氏旧蔵の作品の中から、絞り染めの技法や文様がよくわかる見本 9 件の展示を行い、来館者に広く知ってもらうため解説リーフレットも用意した。



特集陳列「博多絞り」展示風景

◎特集展示

○「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」

会期：平成 29 年 4 月 25 日（火）～6 月 18 日（日）

会場：会場：第 1 展示室（古墳時代コーナー）

内容：古賀市に所在する船原古墳では、平成 25 年 3 月、隣接した土坑（遺物埋納坑）から、古墳時代後期のものと考えられる、朝鮮半島との交流を示す国際色豊かで豪華な馬具、武器、武具が 500 点以上、出土した。

当館では、出土当初から古賀市教育委員会と共同で、科学的調査、保存処置に取り組んでいるところである。

本展は、保存処置が一段落した数ある馬具のうち、出土当初から注目度の高い馬冑に加え、わが国初の発見であるガラス装金銅製辻金具の実物を初公開した。あわせて、船原 3 号墳の石室から出土した金銅製品の展示も行った。

○「骨を蔵める—古代・中世の火葬骨壺—」

会期：平成 29 年 5 月 30 日（火）～7 月 23 日（日）

会場：第 1 展示室（古代コーナー）

内容：日本列島において火葬の風習が始まったのは、飛鳥時代のこととされている。火葬では遺体を焼



特集展示「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」
展示風景

いて茶毘に付し、焼け残った遺骨を拾い、骨壺（骨蔵器）に納め、その器を埋葬して墓としていた。

太宰府市の推定金光寺跡は、観世音寺の49の子院（本寺に属する僧侶などが住んだ所）の一つ、金光寺と推定されている。発掘調査では、14～16世紀に位置づけられる建物の背後に遺体の火葬所や遺骨を埋葬した墓が見つかっており、そこからは火葬墓の骨壺に用いられていた当時でも大変貴重な陶磁器類などが出土した。推定金光寺跡から出土した火葬骨壺5点は、当時の陶磁器類としても重要であることから、平成29年3月に「推定金光寺跡出土品」として福岡県の有形文化財に指定されている。

本展では、指定を記念し、「推定金光寺跡出土品」5点を一挙公開すると共に、古代から中世（一部近世も含む）の火葬骨壺を併せて展示し、北部九州における火葬の風習の足跡をたどるものとした。

主な展示資料

- ・書紀集解（道昭火葬の部分・個人蔵）
- ・太宰府市推定金光寺跡出土骨蔵器（福岡県指定有形文化財・当館蔵）
- ・太宰府市推定金光寺跡出土石塔・陶磁器類（当館蔵）
- ・朝倉市大迫遺跡出土骨蔵器（当館蔵）
- ・宮若市汐井掛遺跡出土骨蔵器（当館蔵）
- ・宮若市柳ヶ谷遺跡出土骨蔵器（当館蔵）
- ・宮若市都地原遺跡出土骨蔵器（当館蔵）
- ・築上町広幡遺跡出土骨蔵器（当館蔵）
- ・筑紫野市結ヶ浦出土骨蔵器・和同開珎（当館蔵）
- ・みやま市女山出土骨蔵器（当館蔵・村山健次旧蔵品）
- ・太宰府市浦ノ田遺跡出土骨蔵器（銅製/陶磁器）・石塔（当館蔵）
- ・香春町陣山屋敷遺跡出土骨蔵器（中世～近世）（当館蔵）

○「懐かしの旧福岡県庁」

会期：平成29年5月30日（火）～7月23日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：第1展示室（近代コーナー）

内容：旧福岡県庁は、大正4年に福岡市天神に建造され、60年以上にわたって福岡県の中核施設として機能した建物である。昭和56年に現在地（博多区東公園）に移転、その後解体されたが、建築資料や模型により、当時の姿に迫っていくことも出来る。



特集展示「^{おさ}骨を蔵める—古代・中世の火葬骨壺—」
展示風景



特集展示「懐かしの旧福岡県庁」に展示の旧福岡県庁の
模型

本展では、この旧福岡県庁に関する建築資料として、棟札、絵葉書、図面、解体時に作成された模型などを展示し、建造当時の福岡県内では数少ない大型西洋式建築物であった、旧福岡県庁の姿を再現した。また当館および福岡共同公文書館が所蔵する公文書等を通して、旧福岡県庁の中で繰り広げられた県の業務についても迫っている。また会期中の一部期間においては、現在も北海道から鹿児島県まで、日本各地に残る戦前建築の都道府県庁について、紹介するパネルも設けた。

なお、会期中の6月30日（金）には、特集展示「骨を蔵める」と合同でギャラリートークを行い、18名の参加があった。

◎特別展示「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」

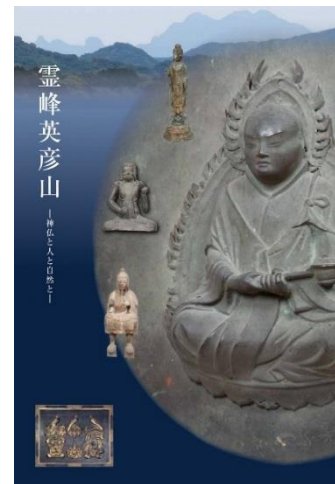
会期：平成29年8月5日（土）～9月24日（日）

会場：第1展示室・第2展示室・第4展示室

主催：九州歴史資料館

共催：英彦山神宮・添田町・添田町教育委員会

内容：九州に冠たる霊山である英彦山においては、平成22年度から5か年にわたって、当館もその一翼を担いつつ、国の史跡指定に向けた文化財調査が行われた。調査の成果をうけて、平成29年2月9日に山は国指定史跡となっている。本展は調査の成果に基づき、文化財指定を記念して、英彦山神宮、添田町、添田町教育委員会の全面的な協力のもとに、開催の運びに至ったものである。展示は、山内に現存する神像や仏像を中心とする文化財を主とし、これに、九州から山口県にかけての、ゆかりある地や霊山の文化財を組み合わせることで、英彦山信仰の展開を示すと共に、山内からは失われてしまった資料を補い、往時の山内の様相を復元的に考えることを試みた。



特別展示「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」図録

展示の構成は「英彦山の姿」、「霊峰に住まう神仏」、「末法の世の聖なる山」、「山中の聖の世界」、「英彦山の松会」（以上第1展示室）「英彦山の昆虫」（第2展示室）、「英彦山の四季」（第4展示室）の7章からなる。「英彦山の姿」では、英彦山の山容や、山の歴史の節目で大きな役割を果たした人物、それに関わる資史料等を展示し、時間と空間にわたる英彦山の輪郭を示した。「霊峰に住まう神仏」は英彦山の主役である神像や仏像のうち、とくに鎌倉時代頃を中心とする一群、そしてゆかりある場に伝わる神像や仏像を展示した。なお、平安時代後期には大きな勢力となっていたことが確認できる英彦山であるが、山内には不思議なことに平安時代に遡る尊像が1軀も見当たらない。今回は平安時代の山内の尊像を考えるために、英彦山六峰の一つとして深いゆかりをもつ求菩提山から、平安時代後期の尊像群を借用して組み込んでみた。「末法の世の聖なる山」は、経塚出土遺物を展示したものである。ここでもやはり、記録には見えながら現存しないものを補うために、国宝銅版法華経と銅筥（国玉神社所蔵）をはじめとする、求菩提山関係資料を組み込んでいる。「山中の聖の世界」では、山中で神仏と共に生きる宗教者たち、そして山外の信仰者に関わる資料を展示したものである。その中でとくに、坊が、宗教施設であり、住まいであり、生業の場であり、宿であり、文芸交流の場でありと多彩な側面を見せていたことが実感された。「英彦山の松会」は、神仏分離以前の英彦山における最大の祭礼である松会に

ついで、英彦山神宮、長崎県平戸市の松浦史料博物館、同県の諫早市美術・歴史館に所蔵される絵巻や、祭礼道具を通して紹介した。「英彦山の昆虫」では添田町の昆虫展示室から英彦山で採集された昆虫の標本を展示し、「英彦山の四季」では、四季折々の山内の風景を写真パネルで紹介したものである。

これらの展示をもって、神仏と人と自然とが共生する、たぐい希なる霊山とその歴史の実像に近づきたいと意図した。展示室に充満した尊像や各種文化財の威容は壮観で、英彦山の偉大さが体感され、そして今後の英彦山研究の深化に資する成果をあげることができた。会期中は、講演会、講座、研究会、現地見学会などを毎週のように開催し、参加者からは好評を得た。その中で9月10日の文化財めぐりでは、実際に英彦山を訪問し、英彦山神宮や、財蔵坊、普段は立ち入れない座主院跡や、3代前の宮司である高千穂宣磨男爵によってそこに建てられた高千穂昆虫学研究所を前身とし建物を継承する、九州大学農学部附属生物学実験施設をはじめとする山内の各地をまわり、館内や展示室では実感することが難しい、英彦山の大きさを体感することで展示への理解を深めた。なお、会期中の入館者は4837名であった。

主な展示資料：県指定彦山小形（英彦山神宮）、英彦山図（松浦史料博物館）、県指定彦山流記（添田町）、重文大講堂建立棟札（英彦山神宮）、重文彦山三所権現御正体（英彦山神宮）、重文銅造如来形立像（英彦山神宮）、県指定銅造不動明王坐像（英彦山神宮）、県指定木造神像（国玉神社）、県指定木造頼厳上人坐像（国玉神社）、県指定十一面観音懸仏（蔵持山神社）、山口県指定文化財金銅薬師如来坐像懸仏（吉永八幡宮）、木造聖観音立像（平観音堂）、佐賀県重要文化財懸仏（水上地区自治会）、木造狛犬（黒川区）、木造神面（黒川区）、重文銅製経筒（英彦山神宮）、重文陶製経筒（国玉神社）、国宝銅板法華経・銅筥（国玉神社）、重文板笈（英彦山神宮）、重文仁王般若経（英彦山神宮）、霊元法皇勅額題字「英彦山」および院宣（英彦山神宮）、守静坊資料（個人蔵）、松養坊資料（個人蔵）、英彦山大権現松会之図（英彦山神宮）、英彦山大権現松会之図（松浦史料博物館）、宣度大先達春峯入絵巻（諫早市美術・歴史館）

展示資料数：84件167点（国宝1件、重要文化財10件、県指定文化財32件）

図録：A4版、180頁、印刷部数2000部（販売部数1000部）、頒価1000円



特別展示「霊峰英彦山—神仏と人と自然と—」展示風景

◎企画展示

29年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、6回の企画展を実施した。企画展は、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展というラインナップで定着しつつある。

春には小学6年生の歴史学習を支援する第39回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催し、小郡市や朝倉市の小学校など11校を受け入れた。夏恒例の展覧会となる第40回企画展「発掘速報展2017 五ヶ山—山のくらし、いのり、そして埋蔵銭—」では、那珂川町五ヶ山ダム建設にともなう発掘調査の成果を展示した。五ヶ山網取遺跡から出土した大量の埋蔵銭のほ

か、巨石祭祀や中世館跡などを紹介した。コレクション展としては、第43回企画展「炭鉱と学校の昭和史」を開催し、旧筑豊鉱山学校の資料を通して、激動の時代の筑豊炭田を取り上げた。

27年度から3か年にわたり、30年度の大宰府史跡発掘50周年に向け気運を盛り上げる意図から大型の企画展「大宰府史跡みどころ展」を行っている。29年度は、第30回企画展「大宰府史跡みどころ展 Part.1 貝原益軒―大宰府研究の先賢たち―」、Part.2の第37回企画展「大宰府の役人と文房具」に引き続き、Part.3として第41回企画展「大宰府を探るサイエンス」を開催し、木簡や漆紙文書、鬼瓦などの大宰府史跡出土品について「科学」の目で検証した結果を提示した。

29年度に特徴的な企画展としては、福岡県が平成24年度から五ヶ年をかけて実施した福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業の完了を記念して第42回企画展「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―」を開催し、県内の中近世城跡からの出土品や城館を描いた絵図、故小幡政義氏の木炭画の城郭鳥瞰画を展示した。また、福岡市美術館の改装により当館で一時保管している東光院旧蔵の仏像を一堂に展示した第44回企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」を開催した。本年は企画展図録として「福岡県の城」「大宰府を探るサイエンス」「堅粕薬師と東光院の古仏たち」の3冊を発行した。

○第39回企画展「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」

会期：平成29年3月22日（水）～7月30日（日）

会場：第2・4展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代をタイムトラベルしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用した結果、第1展示室では実践しにくかった、子どもたちにもわかりやすい展示を実践した例となった。

会期中には、小郡市内の小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

なお、当展覧会は、平成24年度から毎年行ってきたが、今回から古墳時代の章を新設し、これによって縄文時代から古代まで、通史で展示ができるようになった。

また、年度後半の平成30年3月6日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容にて第45回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催している（詳細は30年度年報に掲載予定）。

○第40回企画展「発掘成果展2017 五ヶ山－山のくらし、いのり、そして埋納銭－」

会期：平成29年9月26日（火）～12月24日（日）

会場：第2・4展示室



古墳時代コーナー展示風景

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で数々の成果を挙げている。平成 23 年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催していたが、平成 28 年度は東九州自動車道建設に関わる調査成果の展示を行い、昨年度は五ヶ山ダム建設に先立ち実施された文化財調査の成果について展示を行った。五ヶ山ダム建設関連の文化財調査は平成 14 年度から 19 年度にかけて民俗、建造物、美術工芸、天然記念物を、平成 16 年度から 28 年度にかけて埋蔵文化財の発掘調査と整理報告書作成を実施している。



発掘速報展報告会展示風景

第 2 展示室において、五ヶ山尼寺跡遺跡群 4・6 区、五ヶ山倉谷遺跡、五ヶ山網取遺跡 7 区、五ヶ山東小河内遺跡等の出土品とともに、各発掘調査担当者が作成した解説及び写真パネル等の展示を行った。



発掘速報展報告会

また、第 4 展示室では、「五ヶ山」の由来となる「東小河内」「大野」「桑河内」「網取」「道十里」の 5 地区の景観や民俗などの写真パネルを展示した。期間内の観覧者数は 4,966 名である。

関連事業として、会期中の 10 月 21 日（土）に当館研修室において『発掘速報展 2017』調査報告会五ヶ山－山のくらし、いのり、そして埋納銭－を開催し、70 名の参加を得た。講師と演題は以下のとおりである。

- ・弓削田仁氏（福岡県五ヶ山ダム事務所）「五ヶ山ダムができるまで」
- ・伊崎俊秋（九州歴史資料館）「五ヶ山の民俗等調査成果」
- ・佐々木隆彦氏（うきは市教育委員会）「五ヶ山発掘！埋蔵銭発見！回顧録」

○第 41 回企画展 「大宰府を探索サイエンス」

会期：平成 29 年 10 月 7 日（土）～12 月 3 日（日）

会場：第 1 展示室（古代コーナー）

内容：当館では、大宰府史跡発掘 50 周年に向けて、これまでの大宰府史跡の調査研究成果を順次紹介していくシリーズものの企画展を、平成 27 年度から開催してきた。

本展はその第 3 弾にあたるものである。昭和 43（1968）年の大宰府史跡の発掘調査開始を契機として始められた、遺跡・遺物の保存科学的調



「大宰府を探索サイエンス」ポスター

査の成果から、古代九州全域を治めていた大宰府の出土遺物を新たな眼でみつめる展覧会である。

大宰府における保存科学分野の調査研究は、昭和 50 年前後に木簡等文字資料が出土したことに伴い、赤外線を利用した文字の解読が本格的な幕開けである。劣化し肉眼で読むことが難しい墨書について、判読可能な画像を生み出し、これにより解読に成功した。当時、赤外線を利用した調査研究は、全国的にまだ普及しておらず、福岡県はこの分野において、全国でも最先端の水準であった。そして、平成 22（2010）年、小郡市への移転開館を機に、県立文化財施設において全国初の導入となった X 線 CT スキャナは、考古学をはじめとする各分野の調査研究を大きく飛躍させる画期的な成果を生み出している。

本展では、こうした科学的な調査の原理となる X 線、赤外線、光を利用した研究により解明した構造技法や材質分析の成果から、表面からは窺い知ることができない、大宰府の遺物の姿、形を展示紹介した。

なお、会期中、企画展開催記念講演会 「文化財の保存科学 100 年」（講師：澤田正昭氏（東北芸術工科大学保存修復研究センター長・教授 学術博士））および当館担当職員による九歴講座 「大宰府木簡の自然科学的調査」、タペのギャラリートークを開催した。

主な展示資料：水城跡出土鬼瓦 大宰府史跡出土木簡

大宰府条坊跡出土軒丸・軒平瓦（太宰府市教育委員会蔵）

太宰府市指定文化財 宮の本遺跡出土買地券（太宰府市教育委員会蔵）

鹿児島県指定文化財 京田遺跡出土木簡（鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵）

○第 42 回企画展「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―」

会期：平成 29 年 10 月 7 日（土）～12 月 3 日（日）

会場：第 1 展示室古代～近代コーナー・展示スペース 2

内容：九州の北部に位置する福岡県は、戦国時代には、筑前の少貳氏、豊後の大友氏、肥前の龍造寺氏、中国地方の大内氏・毛利氏など、周辺の戦国大名が覇権を争う一方で、秋月氏、宗像氏、草野氏、問註所氏、宇都宮氏など、各地には有力な国人領主が割拠する戦乱の地であった。また、近世に至る過程では、小早川隆景、黒田孝高、細川忠興、田中吉政などの有力大名が登場、最終的に福岡・小倉・久留米・柳川に四藩が成立した。それら戦乱の痕を示すかのように福岡県内には 1,000 箇所前後もの中近世城館遺跡が残されている。

福岡県教育委員会では、これら県内の中近世城館遺跡の包括的な把握と周知化を目的として平成 24 年度から国庫補助事業として、福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査を実施、4 分冊に及ぶ報告書を刊行し、28 年度末に完了した。

本企画展は調査事業の完了を記念し、出土資料、文献史料、絵図資料の展示を通じて、福岡県の中近世城館遺跡の全貌を紹介する内容とした。また、長年福岡県内の中近世城館の姿を描き続け



「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―」展示風景

てこられた城郭遺跡鳥瞰画士・故小幡政義氏の絵画資料についても展示紹介を行った。

なお、会期中の11月5日（日）には企画展開催記念講演会「福岡県の城郭研究の歩み」（講師：廣崎篤夫氏（城郭研究者・名誉博士（歴史学））を開催すると共に、当館学芸員による福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査の成果報告も行い、124名の参加者を数えた。

○第43回企画展・筑豊工業高校資料展2「炭鉱と学校の昭和史」

会期：平成29年12月26日（火）～30年3月4日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館1階 第2展示室および第1展示室古代コーナー

※第1展示室古代コーナーは平成29年12月8日（金）より開催

内容：筑豊工業高校（直方市）は、大正8年（1919）に筑豊石炭鉱業組合が開校させた筑豊鉱山学校に端を発する学校で、平成30年（2018）は開校100年目に当たる。戦後は福岡県に移管され、後に筑豊工業高校となり、平成17年（2005）に閉校したが、その際に鉱山学校時代からの貴重な資料群が九州歴史資料館に移管された。平成23年度には、これらの一部を紹介する企画展「筑豊工業高校資料展」を開催している。

本展は、この筑豊工業高校資料をテーマとする企画展の第2弾として、主に昭和初期から県立高校に移管された昭和20年代までの資料に焦点を当てた。母体の組合を通してもたらされた、昭和初期の石炭産業に関する資料や、当時の炭鉱の姿を垣間見せる教育資料、戦中から戦後への波乱の時期の学校運営資料などを展示し、激動の時代の筑豊炭田と、この時代を乗り越えてきた学校の歩みを紹介した。

なお、会期中の1月26日（金）にはギャラリートークを行い、13名の参加があった。



「炭鉱と学校の昭和史」展示風景

○第44回企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」

会期：平成30年2月10日（土）～4月11日（水）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：東光院は、JR博多駅近くに伽藍をのこしている寺院である。大同元年（806）に唐から帰国した最澄が、7軀の薬師如来像を造像して、そのうちの1軀を安置したことに始まると伝えられている。古くは天台宗の寺院であつたらしく、中世に禅宗に転じ、江戸時代に真言宗寺院になるなどし、昭和56年（1981）に寺としての活動を終えて、史跡として生まれ変わった。そして寺に伝わる仏像をはじめとする多くの文化財は福岡市に寄贈され、昭和54年（1979）からは、この年に開館した福岡市美術館の東光院仏教美術室にて公開さ



「堅粕薬師と東光院の古仏たち」展示風景

れてきた。今回の展示は、現在行われている福岡市美術館の改装にかかり、その期間中は東光院の文化財を主とする作品群を、当館収蔵庫に受け入れていることを背景として開催されたものである。展示作品は、かつて堅粕薬師と称されてその霊験が喧伝された、平安時代後期の本尊薬師如来立像を中心としながら、平安時代後期の十二神将立像（うち 3 軀は江戸時代）、鎌倉時代の阿弥陀如来立像と日光菩薩立像、中世の仁王像（阿形は 1367 年、吽形は室町時代）、そして、神仏分離で住吉神社の神宮寺である円福寺から移坐されたという、平安時代後期の薬師如来坐像と南北朝時代の十二神将像である。像高 198 cm の本尊薬師如来立像を中心に、古仏が居並ぶ様子は迫力があり、かつての東光院の堂内風景や、寺の長く連綿たる歴史と重要性が体感された。

展示資料数：30 軀（うち重要文化財 25 軀）

◎パネル展

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館 2 階文化情報広場等において実施している。

29 年度は、例年行っている福岡県内の鉄道遺産、保存科学機器による最新成果を紹介するパネル展などのほか、28 年にユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」を紹介するパネル展、西谷名誉館長撮影による日本列島の城の写真展も開催した。また 28 年度に引き続き甘木歴史資料館と連携したパネル展として、筑後川の治水に関する展示なども実施している。また正面玄関右側の回廊では、三沢遺跡を紹介するパネル展も行った。

○保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018」

会期：平成 29 年 3 月 22 日（水）～6 月 17 日（土）

会場：文化情報広場

内容：「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017 - 2018」は、25 年に発見された古賀市船原古墳遺物埋納坑から出土した遺物の科学的調査に係るパネル展である。本展では保存処理から得られた最新成果の中から、轡と杏葉、雲珠と辻金具の材質や構造を中心に紹介した。



「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018」展示風景

○「ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」

会期：平成 29 年 5 月 16 日（火）～7 月 23 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館 2 階 文化情報広場

内容：平成 28 年、日本国内 33 件の「山・鉾・屋台行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録された。

「山・鉾・屋台行事」は、地域の人々が社会の安泰や疫病防除を願い、山・鉾・屋台の巡行などを行う祭礼行事である。「山・鉾・屋台」は伝統的な工芸技術により受け継がれ、事の準備や練習は、世代を超えた交流やコミユニティを結びつける役割を果たしている。

本展では、福岡県文化財保護課の協力により、「博多祇園山笠行事」や「戸畑祇園大山笠行事」など

、九州の「山・鉾・屋台行事」を紹介し、祭りの魅力を発信して訪れる契機となる展示を目指した。

○「福岡鉄道遺産ものがたり5～筑豊本線・日田彦山線編～」

会期：平成29年7月25日（火）～10月1日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成

され、戦前から数多くの鉄道施設も建設されてきた。これらの鉄道施設の中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代における福岡県の交通を物語る貴重な文化遺産でもあり、当館ではこれまでも「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ5回目の本展では、同時期に開催された特別展「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」にあわせ、筑豊本線および日田彦山線を取り上げた。両線の橋梁、トンネル、駅舎、さらに支線の廃線跡などを紹介し、かつて石炭や木材輸送に活躍して、日本の近代化をも支えた鉄道に迫っていく展示とした。

○「日本列島の城」

会期：平成29年10月3日（火）～12月17日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：日本列島には現在でも、多くの城が残されている。こうした日本列島の城は、わが国の土木・建築の歩みと、その城が築かれた地域の歴史を伝える、貴重な文化遺産である。そして当館の西谷正名誉館長はこれまで、日本列島各地で多くの城の写真を撮影されてきた。本展では、同時期に開催した企画展「福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―」にあわせて、全国24件の城を、西谷名誉館長撮影の写真パネルで紹介した。天守閣をもつ近世城郭をはじめ、北海道のチャシや沖縄県のグスクなども取り上げ、日本列島に残されている多様な城に迫る展示とした。

○「女男石護岸施設と筑後川の堰」

会期：平成29年12月19日（火）～平成30年3月11日（日）

会場：文化情報広場

主催：甘木歴史資料館

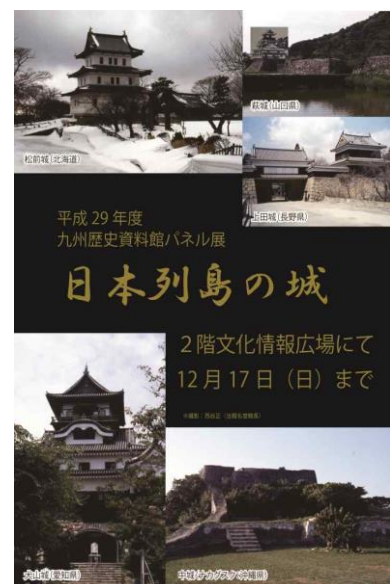
共催：九州歴史資料館



「山・鉾・屋台行事」展示風景



「福岡鉄道遺産ものがたり5～筑豊本線・日田彦山線編～」ポスター



「日本列島の城」ポスター

内容：分館支援をかねた連携事業として開催したものである。平成 28 年 3 月に朝倉市にある女男石護岸施設が福岡県指定史跡に指定された。女男石護岸施設は野鳥川と小石原川が合流する場所にあり、一对の巨岩、石積み護岸、川底の多数の巨石からなる、秋月藩成立初期に築造された治水施設である。甘木歴史資料館では平成 28 年夏季企画展として、この女男石護岸施設の歴史や機能、筑後川に残る堰など治水や利水の歴史を広く展示した。本展示ではそのときの展示内容がわかるパネルを多数用意し、多くの来館者にその重要性などを紹介した。来館者に現地の様子を知ってもらうために模型を展示し、さらにより理解していただけるよう解説リーフレットも用意した。

○「福岡県の名園をめぐる旅」

会期：平成 29 年 12 月 26 日（火）～30 年 3 月 4 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：第 4 展示室

内容：福岡県には室町時代の伝雪舟作庭庭園や、寺院や武家屋敷の庭園、また近代炭鉱主邸宅の庭園など、各時代の特徴と多彩な美しさを持った魅力ある庭園がある。平成 26、27 年度には、県内の歴史的庭園に関する悉皆調査が実施され、また国指定名勝の庭園を有する 6 市町は協議会を設立して庭園の保存及び活用に関する連携強化を図るなど、福岡県の庭園をとりまく状況は盛り上がりつつある。



「福岡県の名園をめぐる旅」展示風景

本展では、福岡県文化財保護課の協力の下、日本庭園の変遷や県内の美しい庭園について、16 枚のパネルで紹介し、庭園の魅力の発信と、多くの方々が実際に庭園を訪れる契機となる展示を目指した。

○平成 29 年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～交流の足あと～」

会期：平成 30 年 3 月 13 日（火）～3 月 25 日（日）

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会場：文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川町）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「交流の足あと」をテーマとし、海を越えた国際交流の様相と、地域間の交流や人々のつながりなどを示す文化財を写真で紹介した。

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、平成 29 年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平成 25 年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。平成 29 年度の実績は考古資料貸出 56 件、同一時利用 29 件(延べ 29 日間)、写真資料貸出・掲載許可 97 件、文書・典籍資料貸出 42 件、同一時利用 39 件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	福岡市博物館	11	大宰府政庁跡出土鬼瓦等	「よみがえれ！鴻臚館－行き交う人々と唐物－」の展示のため	29. 8. 31～29. 10. 26
2	荒神谷博物館	一式	須玖岡本遺跡出土ガラス製品等	魏志倭人伝シリーズⅣ「奴国（老）～青銅器と王」の展示のため	29. 7. 3～29. 9. 7
3	国立歴史民俗博物館	15	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆付着遺物	「URUSHI ふしぎ物語－人と漆の 12000 年史－」の展示のため	29. 6. 19～29. 9. 29
4	九州国立博物館	22	本郷流川遺跡出土青磁碗等	「海の道、アジアの路」（平常展）の展示のため	29. 5. 23～30. 3. 31
5	筑紫野市歴史博物館	22	太宰府系鬼瓦等	「西都大宰府への道～見えてきた大宰府南郊の風景～展」の展示のため	29. 7. 13～29. 9. 19
6	太宰府市文化ふれあい館	4	大野城跡出土百濟系単弁瓦等	「まるごと太宰府歴史展 2017」の展示のため	29. 7. 27～29. 11. 13
7	下関考古博物館	1	辻田遺跡出土槽作り琴	「遥かなる音の世界」展の展示のため	29. 8. 30～29. 11. 21
8	岩戸山歴史文化交流館	3	仙道古墳出土盾持人埴輪等	「石人・石馬と盾持人埴輪」展の展示のため	29. 10. 18～9. 12. 21
9	元興寺文化財研究所	7	大宰府政庁跡出土挂甲鉄札	「鎮物としての武具」展の展示のため	29. 7. 10～29. 11. 2
10	行橋市教育委員会	10	福原長者原遺跡出土品等	「福原長者原官衙遺跡 国史跡指定記念速報展」の展示のため	29. 7. 31～29. 12. 25
11	吉野ヶ里歴史公園	8	大庭久保遺跡出土磨製石剣等	『よみがえる邪馬台国』「倭人伝の道Ⅴ－邪馬台国と筑紫の宝庫 朝倉－」	29. 9. 13～29. 11. 20
12	(株)修復技術システム	3	政庁復元模型図等	大野城心のふるさと館展示制作の参考にするため	29. 7. 20～29. 7. 28
13	大阪府立近つ飛鳥博物館	61	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器等	「古墳出現期の筑紫・吉備・畿内-2・3 世紀の社会と経済-」	29. 9. 11～29. 12. 6
14	行橋市歴史資料館	41	延永ヤヨミ園遺跡出土導水施設木樋等	「邪馬台国時代の豊」展の展示のため	29. 9. 29～29. 12. 20
15	小郡市埋蔵文化財センター	1	大宰府政庁跡出土鬼瓦複製品	「おごおり発掘 50 年～史跡保護と活用～」展の展示のため	29. 10. 18～30. 2. 2
16	豊前市埋蔵文化財センター	18	中村石丸遺跡出土縄文土器等	「地の記憶～豊前の旧石器・縄文時代」展の展示のため	29. 9. 6～29. 11. 15
17	香春町歴史資料館	16	宮原金山遺跡出土遺物	「いにしへの銅生産展」の展示のため	29. 10. 6～29. 11. 30

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
18	杵築市教育委員会	1	延永ヤヨミ園遺跡出土導水施設木樋	「水の願い・神への祈り－御塔山古墳とその時代－」展の展示のため	29.10.5～29.12.18
19	九州国立博物館	12	大宰府政庁跡出土須恵器	「海の道、アジアの路」(平常展)の展示のため	29.10.24～30.3.31
20	伊都国歴史博物館	89	三雲遺跡出土甕棺等	「伊都国の王都を探る(仮題)」展の展示のため	30.1.16～30.3.15
21	糸田町教育委員会	6	知恩寺跡出土湯釜	「掘ったバイ筑豊2017」展の展示のため	29.12.4～30.1.29
22	春日市奴国の丘歴史資料館	1	門田遺跡等出土爪形文土器	「ナベ・カマの移り変わり」展の展示のため	30.1.5～30.3.12
23	那珂川町教育委員会	一式	国境石垣写真	五ヶ山ダムの便益施設等に設置する遺跡の解説看板に使用するため	30.1.16～30.3.31
24	須恵町教育委員会	一式	一の浦遺跡および篠堀遺跡出土遺物、写真および図面	資料調査のため	30.3.1～30.3.31

考古資料の貸出一覧(長期)

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	甕棺	展示等利活用のため	28.7.1～31.6.30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	29.1.1～32.12.31
3	国立羅州文化財研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	29.2.3～32.1.31
4	九州国立博物館	229	門田遺跡出土細石刃ほか	文化交流展示室展示等のため	29.4.1～30.3.31
5	国立歴史民俗博物館	6	広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示のため	29.4.1～30.3.31
6	岩手県立博物館	4	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究のため	29.4.1～30.3.31
7	粕屋総合庁舎	20	箱崎遺跡出土品	展示ケース展示のため	29.4.1～30.3.31
8	甘木資料館	43	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・冶部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土品	常設展示のため	29.4.1～30.3.31
9	求菩提資料館	10	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	29.4.1～30.3.31
10	福岡市博物館	2	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	29.4.1～30.3.31
11	老司公民館	6	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	29.4.1～30.3.31
12	古都大宰府保存協会	29	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示のため	29.4.1～30.3.31
13	大野城市牛頸ダム記念館	1048	牛頸須恵器窯跡出土資料 牛頸須恵器窯跡写真パネル	牛頸ダム記念館における展示のため	29.4.1～30.3.31
14	筑紫野市歴史博物館	108	剣塚遺跡・剣塚3号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土品	常設展示のため	29.4.1～30.3.31
15	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示のため	29.4.1～30.3.31
16	古賀市教育委員会	19	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山8号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示のため	29.4.1～30.3.31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
17	春日市教育委員会	6	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示のため	29.4.1～30.3.31
18	伊都国歴史博物館	174	三雲南小路遺跡出土資料他	展示等利活用のため	29.4.1～30.3.31
19	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館常設展示のため	29.4.1～30.3.31
20	みやま市教育委員会	31	上枇杷遺跡・権現塚南遺跡・大江北遺跡・三船山遺跡・金栗遺跡出土資料	みやま市歴史資料館展示のため	29.4.1～30.3.31
21	みやま市教育委員会	17	清水山遺跡群礫石器、坂田中園遺跡縄文土器、権現塚遺跡群弥生土器、九折大塚古墳出土埴輪	みやま市歴史資料館展示のため	29.4.1～30.3.31
22	小郡市埋蔵文化財センター	262箱一式	津古内畑遺跡第3,4,5次調査出土資料 津古内畑遺跡第3,4,5次調査図面及び写真	報告書作成のため	29.4.1～30.3.31
23	筑前町教育委員会	174箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用のため	29.4.1～30.3.31
24	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・戸原堀ノ内遺跡・井山古墳群出土資料	展示等利活用のため	29.4.1～30.3.31
25	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土遺物	町民センター歴史資料室展示のため	29.4.1～30.3.31
26	みやこ町教育委員会	23	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土品	みやこ町歴史民俗博物館常設展示のため	29.4.1～30.3.31
27	鞍手町教育委員会	10	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用のため	29.4.1～30.3.31
28	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡・トラノ尾遺跡・塚元遺跡出土遺物	篠栗町歴史民俗資料室展示のため	29.4.1～30.3.31
29	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示のため	29.4.1～30.3.31
30	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示のため	28.9.1～29.8.31
31	栃木県立博物館	2	門田遺跡、甕棺上下甕	常設展示のため	28.10.1～29.9.30

考古資料の一時利用（資料見学）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	九州国立博物館	一式	観世音寺等出土貿易陶磁	展示のための資料調査	29.4.27
2	個人	一式	山の前1号墳等出土鉄製品	論文作成のため	29.5.7
3	筑紫野市歴史博物館	15	大宰府史跡出土木簡	展示のための資料調査	29.5.12
4	太宰府市教育委員会	一式	水城跡第26次・38次調査出土遺物、写真	調査研究のため	29.5.19
5	八女市岩戸山歴史文化交流館	3	仙道古墳出土盾持人埴輪等	展示のための資料調査	29.6.2
6	個人	一式	勝浦井ノ浦古墳出土矛、石突	修士論文作成のため	29.6.2
7	個人	一式	山崎遺跡・中村石丸遺跡出土土器	論文作成のため	29.6.3

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
8	個人	一式	福津市所蔵奴山正園古墳出土鉄器	論文作成のため	29. 6. 13
9	個人	一式	柿原 G1 号石棺出土櫛等	調査研究のため	29. 6. 16
10	筑紫野市歴史博物館	7	大宰府系鬼瓦等	展示のための資料調査	29. 6. 21
11	行橋市歴史資料館	一式	延永ヤヨミ園遺跡出土木樋等	展示のための資料調査	29. 6. 24
12	大阪府立近つ飛鳥博物館	一式	西新町遺跡出土土器	展示のための資料調査	29. 7. 7
13	個人	一式	柏田遺跡・中村石丸遺跡出土石器	論文作成のため	29. 7. 12
14	個人	一式	辻垣長通遺跡出土朱付着土器	調査研究のため	29. 8. 9
15	杵築市教育委員会	一式	延永ヤヨミ園遺跡出土木樋	展示のための資料調査	29. 9. 6
16	飯塚市教育委員会	一式	井手ヶ浦窯跡群出土須恵器	報告書作成のため	29. 9. 22
17	個人	一式	観世音寺出土銅製品等	調査研究のため	29. 10. 4
18	個人	27	初期貿易陶磁	論文作成のため	29. 10. 20
19	長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所	一式	宮原遺跡 D 地区出土土器	報告書作成のため	29. 11. 17
20	個人	65	陶硯、転用硯	卒業論文作成のため	29. 11. 27
21	個人	一式	大宰府政庁跡出土島尾	調査研究のため	29. 12. 6
22	小郡市埋蔵文化財調査センター	1	石崎曲り田遺跡出土土器	調査研究のため	29. 12. 11
23	青森県埋蔵文化財調査センター	18	大宰府政庁周辺官衙跡出土陶磁器	報告書作成のため	29. 12. 14
24	個人	一式	大宰府史跡出土木簡等	調査研究のため	29. 12. 21
25	福岡県立アジア文化交流センター	一式	辻垣ヲサマル遺跡出土土器等	展示のための資料調査	30. 1. 19
26	個人	115	観世音寺出土滑石製石鍋等	調査研究のため	30. 2. 9
27	個人	5	西新町遺跡出土遺物	調査研究のため	30. 2. 13
28	荒神谷博物館	14	西新町遺跡出土遺物	展示のための資料調査	30. 3. 6
29	福岡市博物館	2	湯納遺跡出土土器等	調査研究のため	30. 3. 28

文書・典籍資料の貸出一覧(長期)

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	筑豊高等学校	223	筑豊工業高校資料	資料室における展示	29. 4. 1～30. 3. 31
2	福岡県青少年科学館	90	筑豊工業高校資料	常設展示	29. 4. 1～30. 3. 31
3	九州国立博物館	1	筑豊工業高校資料	常設展示	29. 4. 1～30. 3. 31

文書・典籍資料等の一時利用(資料見学等)

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	大野城市教育委員会	68	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	29. 4. 2～30. 1. 13
2	新修宗像市史編さん委員会	780	福岡日日新聞・福陵新報・西日本新聞・筑紫新聞・めさまし新聞(紙焼)	市史編纂	29. 4. 2～30. 3. 31
3	個人	19	野田大塊文書	調査研究	29. 4. 9
4	(株)VSQ制作部	1	伊東尾四郎文書	番組制作	29. 4. 12
5	柳川市史編さん係(柳川古文書館内)	51	野田文書	市史編纂	29. 4. 14～29. 6. 23

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
6	個人	2	地図・絵図史料	調査研究	29. 4. 18
7	個人	19	山北村庄屋文書・鍵水文書・石野文書	調査研究	29. 5. 6～29. 5. 21
8	柳川古文書館	14	石橋(八)文書	市史編纂	29. 6. 2
9	個人	1	地域史収集資料	調査研究	29. 6. 7
10	個人	2	伊東尾四郎文書・斎田家史料	調査研究	29. 6. 17
11	筑紫野市教育委員会文化情報発信課	1	西日本新聞(紙焼)	調査研究	29. 6. 27
12	個人	27	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	29. 7. 13～29. 7. 15
13	個人	10	花瀬村庄屋文書	調査研究	29. 7. 27
14	個人	3	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究	29. 8. 2
15	個人	7	福岡藩関係史料	調査研究	29. 8. 8
16	個人	22	永江文書・郡町村是(紙焼)・福岡日日新聞(紙焼)	市史編纂・町史編纂	29. 8. 25～30. 3. 21
17	個人	44	林(美)文書	調査研究	29. 9. 1～29. 9. 15
18	個人	48	永江文書・貝原収蔵文書	調査研究	29. 9. 6～29. 9. 8
19	福岡市博物館市史編さん室	30	本田(誠)文書・松村(△)文書	市史編纂	29. 9. 20
20	個人	6	伊東尾四郎文書	調査研究	29. 9. 22
21	個人	3	西川文書	町史編纂	29. 10. 5
22	個人	25	筑豊工業高校資料	調査研究	29. 10. 13
23	個人	3	恵良文書(紙焼)	調査研究	29. 10. 20
24	個人	11	篠崎文書	調査研究	29. 11. 7
25	九州大学附属図書館	8	糟屋郡史編纂資料	調査研究	29. 11. 25
26	個人	6	安高文書	調査研究	29. 12. 2
27	個人	78	福田文書・中間唐戸水門文書・地図・絵図史料	調査研究	29. 12. 7
28	個人	22	永江文書	調査研究	29. 12. 27～ 30. 2. 22
29	個人	18	野田文書・永江文書	市史編纂	30. 1. 5
30	個人	7	糟屋郡史編纂史料	調査研究	30. 1. 21
31	個人	4	福岡日日新聞	調査研究	30. 1. 26
32	個人	4	秋吉文書・中尾文書・大浦家資料	調査研究	30. 2. 3
33	個人	1	地図・絵図史料	調査研究	30. 2. 9
34	宇美町誌編さん室	269	福岡県酒造組合資料・「糟屋郡史」編纂関係資料・福岡藩関係史料・地図・絵図史料・福糟屋郡宗像郡戸長役場関係資料・郡是(紙焼)	町史編纂	30. 2. 15～30. 3. 1
35	個人	3	福岡藩関係史料	調査研究	30. 2. 18
36	個人	11	戸川文書	調査研究	30. 2. 20
37	個人	4	安高文書	調査研究	30. 2. 27
38	筑前町史編さん室	3	西川文書・金子家文書	町史編纂	30. 3. 8～30. 3. 13
39	個人	10	西川文書	町史編纂	30. 3. 16

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	福岡市博物館	14	大宰府政庁跡出土鬼瓦等	「よみがえれ！鴻臚館－行きかう人々と唐物－」展に使用	デジタルデータ
2	ビデオステーションキュー	4	筑前国続風土記 巻之十九・二十	報道番組「土曜ニュースファイル CUBE」で放映	許可のみ
3	ディラナダチ	1	水城跡再現イラスト	廣済堂出版刊行『天皇 125 代皇位継承の秘史』に掲載するため	デジタルデータ
4	スリーシーズン	1	大野城跡百間石垣	ナツメ社発行『史跡巡りを深く楽しむための戦国の城事典』に掲載	デジタルデータ
5	個人	1	三雲遺跡南小路地区出土雷文鏡	福岡県主催「福岡古代の旅」のホームページ等に掲載	許可のみ
6	直方市教育委員会	7	旧福岡筑豊工業高校所蔵写真	直方市石炭記念館説明記録保存 DVD パッケージに使用	許可のみ
7	荒神谷博物館	9	門田遺跡出土鉄器等	魏志倭人伝シリーズⅣ「奴国（壱）－青銅器と王－」展の広報等に使用	デジタルデータ
8	国立歴史民俗博物館	15	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆付着遺物	「URUSHI ふしぎ物語-人と漆の 12000 年史-」展の図録等に掲載	デジタルデータ
9	宇検村教育委員会	2	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土木簡	『宇検村史』に掲載	デジタルデータ
10	高松市教育委員会	1	特別史跡大野城跡	屋嶋城跡パンフレット（増刷）に掲載	許可のみ
11	太宰府市教育委員会	3	水城跡模型写真等	「太宰府の史跡シリーズ 特別史跡水城跡」パンフレットを市 HP で公開	許可のみ
12	筑紫野市歴史博物館	23	太宰府系鬼瓦等	「西都大宰府への道～見えてきた大宰府南郊の風景～」	デジタルデータ
13	古都大宰府保存協会	4	大宰府史跡の調査開始等	古都大宰府保存協会 HP に掲載	デジタルデータ
14	トップシーン	1	水城跡と大野城跡	NHK-BS プレミアム「英雄たちの選択」で放映	デジタルデータ
15	エスオーダブリュ	6	太宰府防衛網等	J:COM 番組「発見！筑紫の歴史 時の旅人」で放映	デジタルデータ
16	EN・JIN	4	九州歴史資料館展示室画像	日本水士総合研究所発行『一度は訪ねてみたい日本の原風景』に掲載	デジタルデータ
17	下関市立考古博物館	1	辻田遺跡出土槽作り琴（琴 1 号）	「遥かなる音の世界」展に係る広報等に使用	デジタルデータ
18	読売新聞西部本社	1	大宰府史跡第 160 次調査出土海獣葡萄鏡	7 月 9 日発行予定の読売新聞九州・山口版紙面に掲載	許可のみ
19	太宰府市	3	重要文化財鬼瓦、文様磚、大野城跡礎石群	「古代大宰府と四泚・百濟」日韓写真展の展示物に掲載	許可のみ
20	元興寺文化財研究所	7	大宰府政庁跡出土挂甲鉄札	「鎮め物としての武具」展の展示および図録に掲載	許可のみ
21	吉野ヶ里歴史公園	19	大庭久保遺跡全景等	『よみがえる邪馬台国』『倭人伝の道Ⅴ-邪馬台国と筑紫の宝庫 朝倉-』展の展示パネル等に掲載	許可のみ
22	昭和堂	1	大宰府政庁中門の発掘遺構図および想定屋根形式	清水重教「描かれた古代の寺院・宮殿建築-文の建築と東大寺大仏殿-」『描かれた都市と建築』へ掲載	許可のみ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
23	NHK プラネット九州支社	31	新原・奴山 1 号墳出土鉄製品	NHK 放送番組「神宿る島 宗像・沖ノ島と関連遺産群」で放映	許可のみ
24	北部九州河川利用協会	1	『福岡県の中近世城館跡Ⅳ』P.107 第 84 図妙見城曲輪群Ⅵの石垣	うきは市発行『うきは歴史講座 古代・中世編』に掲載	許可のみ
25	福岡県立アジア文化交流センター	2	九州の寺社シリーズ 12 『対馬 檜根 法清寺観音堂』P.5 図版 7、P.6 図版 8	文化交流展「対馬-違法にみる交流の足跡-」の図録等に掲載	デジタルデータ
26	大阪府立近つ飛鳥博物館	15	西新町遺跡遠景等	平成 29 年度秋季特別展の展示・図録・ポスター等に掲載	デジタルデータ
27	中央公論社	1	柿原古墳群出土鉄鏃（『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告』6 下巻）	松木武彦著『人はなぜ戦うのか 考古学から見た戦争』に掲載	デジタルデータ
28	行橋市歴史資料館	8	辻垣遺跡の環濠と集落等	『邪馬台国時代の豊』展における図録・展示パネルに掲載	許可のみ
29	個人	4	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告第 11 集等掲載写真	大野城市教育委員会開催の考古学講座で使用	デジタルデータ
30	メック	5	筑豊工業高校資料写真	ケーベレッジ独自放送 CH で放映	デジタルデータ
31	愛媛県歴史文化博物館	1	栗田遺跡出土祭祀土器	「大型器台とその時代-西部瀬戸内の弥生文化圏を探る-」展の写真パネルに掲載	許可のみ
32	ネクスス	2	奴山正園古墳出土装身具	「開運！なんでも鑑定団」で放映	許可のみ
33	図書館振興財団	1	大野城跡百間石垣	図書館振興財団 HP で公開	許可のみ
34	日本放送協会大阪放送局制作部	1	新原・奴山古墳群出土鉄製品	歴史秘話ヒストリア「沖ノ島（仮題）」で放映	許可のみ
35	小郡市教育委員会	1	大宰府政庁第Ⅲ期復元模型	『おごおり発掘 50 年～史跡の保護と活用～』展の展示パネル・パンフレットに掲載	デジタルデータ
36	太宰府市教育委員会	1	水城跡第 24 次調査の積土土層と敷粗朶	太宰府市広報に掲載	許可のみ
37	豊前市教育委員会	8	中村石丸遺跡全景等	『地の記憶～豊前の旧石器・縄文時代展～』に使用	デジタルデータ
38	小学館	1	大宰府政庁模型	『小学館版学習まんが ドラえもん ふしぎのヒストリー③海賊大暴れ！』に掲載	デジタルデータ
39	西日本文化協会	2	絵葉書、地図	『西日本文化』秋季号（第 484 号）に掲載	デジタルデータ
40	北九州市市民文化スポーツ局文化企画課	17	筑豊工業高校写真	北九州市八幡西区内「寿命の唐戸」歴史講演会時の資料に掲載	デジタルデータ
41	杵築市教育委員会	2	延永ヤヨミ園遺跡出土木樋	『水の願い・神への祈り-御塔山古墳とその時代-』の展示・図録に掲載	デジタルデータ
42	九州国立博物館を愛する会	1	宝亀十一年具注曆断簡赤外線写真	九博ふるさとセミナーのチラシに掲載	許可のみ
43	朝日新聞メディアプロダクション	1	桂川王塚古墳内部の壁画	朝日新聞福岡・山口版夕刊および HP「朝日マリオン・コム」に掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
44	RKB 映画社	1	大宰府政庁復元模型	第 37 回全国豊かな海づくり大会福岡大会の OP 映像に使用	デジタルデータ
45	西日本新聞文化部	2	西新町遺跡発掘調査写真	新聞記事に掲載	デジタルデータ
46	太宰府市教育委員会	1	「太宰府天満宮御境内之絵図」	太宰府市広報に掲載	許可のみ
47	環境デザイン機構	1	福島古城	八女市横町屋交流館における常設展示パネルに掲載	デジタルデータ
48	日田市立博物館	6	九州歴史資料館『霊峰英彦山』所収画像	「日田の山々と信仰」展の展示パネルに掲載	デジタルデータ
49	小倉城における護摩焚き実行委員会	5	九州歴史資料館『霊峰英彦山』所収画像	『魅惑の霊峰 英彦山』に掲載	デジタルデータ
50	個人	1	筑豊工業高校資料写真 11	著作集『筑豊-石炭と人々の生活-』に掲載	デジタルデータ
51	フリーノート	3	大宰府の上空から博多湾を望む、等	福岡県広報誌『グラフふくおか』に掲載	デジタルデータ
52	フリーノート	2	大宰府の防衛網、百間石垣	福岡県広報誌『グラフふくおか』に掲載	デジタルデータ
53	フリーノート	3	版築の突棒の痕跡	福岡県広報誌『グラフふくおか』に掲載	デジタルデータ
54	碧水社	4	水城木樋等	学研プラス発行『続 日本 100 名城』『水城』『基肆城』に掲載	許可のみ
55	小倉城における護摩焚き実行委員会	1	豊前小倉城絵図	『魅惑の霊峰 英彦山』に掲載	デジタルデータ
56	糸田町教育委員会	1	知恩寺跡全景写真	『掘ったバイ筑豊 2017』の展示等に使用	デジタルデータ
57	太宰府市	1	九州歴史資料館『大宰府復原』中「ベルトの写真」	太宰府市広報に掲載	許可のみ
58	古都大宰府保存協会	1	筑前国太宰府神社之全景十二景	『都府楼』49 号に掲載	許可のみ
59	行橋市教育委員会	1	福原長者原遺跡南回廊状遺構	「福原長者原官衙遺跡」パンフレットに掲載	許可のみ
60	飯塚市教育委員会	1	県報 230 集『井手ヶ浦窯跡群』巻頭図版 2-1	飯塚市文化財調査報告書第 52 集『井手ヶ浦窯跡群Ⅱ』に掲載	デジタルデータ
61	同成社	1	画文帯同向式神獸鏡 B 渡邊正氣氏拓本	辻田淳一郎『同型鏡と倭の五王の時代（仮）』に掲載	許可のみ
62	雄山閣	3	井手ヶ浦 8 号窯跡写真等	『季刊考古学』142 号に掲載	デジタルデータ
63	韓国 KBS	1	西新町遺跡出土品（第 1 展示室展示中）	KBS 新年特番『伽耶とは（仮題）』で放映	許可のみ
64	個人	1	福岡市博物館蔵「博多人形・貝原益軒」	『日本文学研究ジャーナル』第 4 号に掲載	許可のみ
65	伊都国歴史博物館	89	三雲遺跡南小路地区出土品等	「伊都国の王都を探る（仮題）」展の展示、図録、広報に掲載	デジタルデータ
66	日本放送協会福岡放送局	22	新原・奴山 1 号墳出土鉄製品	NHK 総合「古代からの祈りは続いて」で放映	許可のみ
67	ビデオステーションキュー	1	博多大宰府図屏風	報道番組「土曜ニュースファイル CUBE」で放映	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
68	佐賀県立図書館	1	彦御山宝印衝立	『佐賀県近世史料』第10編（宗教編）第6巻「山岳信仰」の口絵写真として掲載	デジタルデータ
69	直方市教育委員会	7	旧福岡県立筑豊工業高校所蔵写真	シンポジウムポスター・チラシ・パンフレット、絵葉書に掲載	許可のみ
63	韓国 KBS	1	西新町遺跡出土品（第1展示室展示中）	KBS 新年特番『伽耶とは（仮題）』で放映	許可のみ
64	個人	1	福岡市博物館蔵「博多人形・貝原益軒」	『日本文学研究ジャーナル』第4号に掲載	許可のみ
65	伊都国歴史博物館	89	三雲遺跡南小路地区出土品等	「伊都国の王都を探る（仮題）」展の展示、図録、広報に掲載	デジタルデータ
66	日本放送協会福岡放送局	22	新原・奴山1号墳出土鉄製品	NHK 総合「古代からの祈りは続いて」で放映	許可のみ
67	ビデオステーションキュー	1	博多太宰府図屏風	報道番組「土曜ニュースファイル CUBE」で放映	デジタルデータ
68	佐賀県立図書館	1	彦御山宝印衝立	『佐賀県近世史料』第10編（宗教編）第6巻「山岳信仰」の口絵写真として掲載	デジタルデータ
69	直方市教育委員会	7	旧福岡県立筑豊工業高校所蔵写真	シンポジウムポスター・チラシ・パンフレット、絵葉書に掲載	許可のみ
70	個人	1	勝浦峯ノ畑古墳出土冠帽図面（申請者加筆）	『古墳時代の日朝交流と金工品』に掲載	許可のみ
71	東京大学出版会	1	竹原古墳壁画	辻惟雄著『日本美術の歴史』の英語版に掲載	許可のみ
72	エスオーダブリュ	7	高床式倉庫模式図等	J:COM 番組「発見！筑紫の歴史 時の旅人」で放映	デジタルデータ
73	福岡県立四王寺県民の森管理事務所	14	百間石垣等	宇美町教育委員会発行冊子「特別史跡大野城跡」PDFデータをHPで公開	許可のみ
74	個人	2	大宰府政庁跡全景、竹原古墳奥室壁画	『「邪馬台国」論争は終わった』、『九州王朝の滅亡と天武の出現』に掲載	デジタルデータ
75	太宰府市	1	大宰府政庁跡発掘調査の様子（昭和43年）	太宰府市広報に掲載	デジタルデータ
76	北九州市立自然史・歴史博物館	15	県報250集『福岡県の中近世城館跡Ⅱ』、県報254集『福岡県の中近世城館跡Ⅲ』所収図	「GIS 基礎研修」で使用	デジタルデータ
77	太宰府市商工会	1	筑前国太宰府神社之全景十二景	「だざいふ・なび」サイトに掲載	許可のみ
78	明石書店	1	大野城跡出土素弁蓮華文軒丸瓦	古田史学の会編『発見された倭京-大宰府都城と官道 古代に真実を求めて-』所収論文「太宰府大野城の瓦」に掲載	デジタルデータ
79	フリーノート	3	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告10所収画像	福岡県広報誌『グラフふくおか』に掲載	デジタルデータ
80	柳川市教育委員会	8	大野城と水城等	柳川の歴史1『柳川の成り立ち』に掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
81	奈良文化財研究所	53	大宰府史跡出土木簡画像	奈文研 HP「木簡庫」に掲載	許可のみ
82	西日本文化協会	1	地図・絵図史料 172「最新版 福岡市全図 観光案内」	田中滋幸「百年超企業・長寿の知恵 33 大賀薬局」『西日本文化』春季号に掲載	デジタルデータ
83	同成社	2	水城と大野城、水城復元図	山岸良二著『おとうさん おかあさんとたのしむ考古学（仮）』に掲載	デジタルデータ
84	太宰府市日本遺産活性化協議会	1	水城イラスト	太宰府市の日本遺産を紹介する HP に掲載	許可のみ
85	かみゆ	1	水城跡航空写真	西東社発行『マンガでサラッとわかる日本史（仮）』に掲載	許可のみ
86	学会	3	大宰府～博多湾空撮写真等	三上喜孝「〈多賀城・大宰府〉古代国家のフロンティア（仮題）」『学会会報』930号に掲載	許可のみ
87	筑前町教育委員会	5	七板遺跡出土鉄戈	『筑前町史資料編』に掲載	デジタルデータ
88	個人	1	林（美）文書 139「〔長崎御蔵図〕」	長崎文献社刊行『長崎絵図帖の世界』	許可のみ
89	いきもん	2	王塚古墳石室画像	カプセルトイ商品の製作に使用	デジタルデータ
90	苅田町教育委員会	1	青龍窟周辺上空写真	苅田町教育委員会発行『清龍窟ハンドブック』に掲載	デジタルデータ
91	鹿児島大学総合研究博物館	一式	真浄寺 2 号墳出土短甲	科研費における研究成果報告に掲載	許可のみ
92	国立歴史民俗博物館	3	大宰府政庁復元模型等	展示パネルに掲載	デジタルデータ
93	太宰府市教育委員会	1	『十二ヶ月風俗図絵巻』	大宰府の絵師調査報告『齋藤秋圃・梅圃関係資料』に掲載およびデジタルデータの公開	許可のみ
94	北九州市立自然史・歴史博物館	5	遠賀郡藤田村花尾山古城図等	花尾城跡の文化財調査報告書に掲載	デジタルデータ
95	個人	4	大野城太宰府口城門跡の発掘調査時の光景等	高倉洋彰著『見聞考古学の薦め（仮題）』に掲載	デジタルデータ
96	福岡県立アジア文化交流センター	1	東京大学日本史学研究室所蔵「筑前大宰府水城の一部切堀図」	特収展示「大宰府研究の歩み」に係る展示・広報・図録に掲載	許可のみ
97	八女市	5	五條家文書等	『八女市南北朝時代歴史回廊基本構想』に掲載	デジタルデータ

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

29 年度も、小学6 年生、中学1 年生が学習する時期に合わせて4～8月に企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。ここでは、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を展開した。縄文・弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色を読み取るよう子どもたちに問いを投げかけ視点を



小学校来館学習

を示してから見学を行った。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子が分かるように、道具を通してそれらを使っていた人々の暮らしに目を向けさせた。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えを記入できるようにした。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子ども達が個々に「お気に入り」の資料を自由に見て回る活動を行った。子ども達は、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんな物なのかメモを取っていた。

第4展示室では、遺構展示それぞれにかかわる当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。さらに、中庭では、取り上げた遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明に、興味深そうに見聞きする姿が見られた。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数
4 月 13 日 (木)	朝倉市立甘木小学校 (6 年生)	104 名
4 月 26 日 (水)	小郡市立三国小学校 (6 年生)	125 名
4 月 27 日 (木)	大野城市立下大利小学校 (6 年生)	39 名
5 月 2 日 (火)	須恵町立須恵第2 小学校 (6 年生)	130 名
5 月 9 日 (火)	小郡市立東野小学校 (6 年生)	63 名
5 月 11 日 (木)	朝倉市立福田小学校 (6 年生)	20 名
5 月 16 日 (火)	小郡市立大原小学校 (6 年生)	59 名
5 月 19 日 (金)	朝倉市立立石小学校 (6 年生)	106 名
5 月 31 日 (水)	小郡市立のぞみが丘小学校 (6 年生)	118 名
6 月 7 日 (水)	小郡市立立石小学校 (6 年生)	49 名
6 月 15 日 (木)	東明館中学校 (6 年生)	127 名
11 月 24 日 (金)	大野城市立御陵中学校 (1 年生)	117 名
1 月 23 日 (火)	筑後市立羽犬塚小学校 (6 年生)	109 名
	来館学習総数	1, 163 名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び九州歴史資料館が合同で実施しているものである。四者で児童生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画し、本年度は小学校3校、高等学校1校が来館した。

事前に学校との打ち合わせを行い、学習進度、児童・生徒の関心、先生方のねらいを十分に聞いてプログラムを作成したことで、各学校のニーズに答えることができた。

例えば、久留米市立西牟田小学校は、学校側から、縄文時代と弥生時代の暮らしについて学ばせたいという要望があったために、第2展示室で縄文時代と弥生時代の出土資料の比較による当時の人々の暮らしぶりについての学習だけではなく、第1展示室でも専門の学芸員が縄文時代と弥生時代の出土資料の説明を行った。

スクールミュージアム事業での来館者総数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人 数
4月20日（木）	久留米市立西牟田小学校（6年生）	57名
5月11日（木）	福岡市立田隈小学校（6年生）	65名
6月2日（金）	大木町立木佐木小学校（5年生）	55名
10月20日（金）	福岡県立三池工業高校（定時制）	48名
スクールミュージアム総数		225名

○中学校職場体験

29年度も、8校41名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。館内の見学、土器の洗浄・復元、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃などいろいろな業務を体験することを通して、多くの人の様々な仕事によって館全体の事業が成り立つことや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の在り方・生き方を考えさせることを目指した。



中学校職場体験

実施日と参加学校団体は以下のとおりである。

期 日	学校名	人 数
7月5日（水）～7月6日（木）	太宰府市立学業院中学校（2年生）	7名
11月9日（木）～11月10日（金）	小郡市立三国中学校（2年生）	5名
1月23日（火）～1月24日（水）	太宰府市立大宰府東中学校（2年生）	5名
1月24日（水）～1月25日（木）	春日市立春日野中学校（2年生）	3名
2月6日（火）～2月7日（水）	筑紫野市立筑紫野中学校（2年生）	5名
2月20日（火）～2月21日（水）	筑紫野市立筑紫野南中学校（2年生）	6名
2月22日（木）～2月23日（金）	筑紫野市立筑山中学校（2年生）	5名
2月27日（火）～2月28日（水）	春日市立春日中学校	5名
職場体験総数		41名

○高校生インターンシップ

29年度は、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。インターンシップでは、中学生職場体験との差別化を図り、歴史系博物館ならではのプログラムを提供した。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方、在り方を考える時間となったと考える。

研修の日程、参加人数は以下のとおりである。

	午 前	午 後
1日目	開講式、オリエンテーション、館内見学	受付業務、広報普及業務
2日目	学芸員業務体験、図書整理、遺物整理	遺物整理、図書整理、広報普及業務
3日目	企画展展示準備、報告書作成、閉講式	

期 日	学 校 名	参加人数
7月18日（火）～20日（木）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） （戸畑2・光陵1・城南1・福岡工業2・久留米2・大牟田北2・ありあけ新世2）	12名
7月26日（水）～28日（金）	福岡県立三井高等学校（2年生）	1名
8月16日（水）～18日（金）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） （輝翔館1・博多青松1・筑紫丘1・久留米1・三池2・八女2）	8名
インターンシップ総数		21名

○博学連携ワークショップ

期日：平成30年2月3日（土）

内容：学校教育における博物館活用の促進を図るため、当館がこの地にあること、学習支援の実際、博物館活用のよさの周知が必要であるとの考えから、小学校の先生方を対象としたワークショップを2月に開催した。「学校と博物館でつくる来館学習ワークショップin 九歴～博物館を生かした『楽しみながら学ぶ』学習を先生とともに～」と銘打ち、小郡市内の小学校の先生方ともに行った。参加者は7名であった。

意見交流の場面では、小学校における新学習指導要領の試行に伴う博物館に期待することやお願い、活用する効果や、学習活動の在り方についていろいろな意見が出された。また、当館学芸員と意見交流をすることができた。先生方を、博物館を活用した学習の主体者に



博学連携ワークショップ展示室見学風景

取り込み、実際の学習を指導する授業者の目線、子どもたちの目線に立った声をいかして、展示や学習活動の改善を図っていく方向である。

日程は以下のとおりである。

	内 容	場 所
9:30～10:00	受 付	文化情報広場
10:00～13:05	開会行事（オリエンテーション）	研修室
10:05～10:35	来館学習の説明	研修室
10:35～11:10	博物館の機能を生かした学習メニューの作成	研修室
11:10～11:20	休 憩	
11:20～11:50	情報交換・意見交流	研修室
11:50～12:00	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○英彦山の歴史を知るin九州歴史資料館～特別展「霊峰英彦山」から～

期日：平成29年8月24日（木）

内容：郷土に誇りをもった児童・生徒の育成には、地域の文化財を生かした教材による社会科学習が大切である。しかし、教材作成に時間を費やすことができなかったり、どの様にして地域の文化財を教材化したりすればいいのかわからない先生方が多くいる。そんな悩みを解消するために、特別展会期中に添田町の小・中学校の先生方を対象として企画したものである。当日は添田町の小学校・中学校の先生方を対象に募集を行い、21名の先生方に参加していただいた。



英彦山の歴史を知る in 九州歴史資料館

次年度は、特別展開期中に筑紫地区の先生方を対象に研修会を計画している。

日程は、以下のとおりである。

時間	内 容	場 所
13:00～13:20	受 付	文化情報広場
13:20～13:30	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:30～14:10	講話～英彦山の歴史や文化財～	研修室
14:10～14:50	バックヤード見学	一般収蔵庫他
14:50～15:00	休 憩	
15:00～15:40	特別展観覧	第1展示室
15:40～16:20	教材紹介	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○教員のための博物館の日 in きゅうれき

期日：平成29年9月16日（土）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」であるひと・もの・ことを知ってもらい、先生方に博物館を楽しんでもらおうと企画したものである。教科・担当学年を問わず小・中・高9名の先生方に参加していただいた。

日程は、以下のとおりである。

時間	内 容	場 所
13:00～13:15	受 付	文化情報広場
13:15～13:35	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:35～14:30	バックヤード見学	一般収蔵庫他
14:30～15:10	特別展観覧	第1展示室
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:10	当館所蔵の文化財の紹介	研修室
16:10～16:20	感想交流	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、27年度に第3期ボランティアを新たに募集し、28年4月から39名の体制で始動した。29年度は第3期の二年目である。

土・日・祝日の古代体験メニューの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。月に一度行われるボランティア研修での会議では、活動体制や内容の改善にかかわる意見や要望なども出され、組織全体として積極的に活動することができた。

◎研修会

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第2土曜日の午前中（10：00～）に定例研修会を開催している。前半は、先月の活動の振り返りと今後のイベントの流れや役割の確認、土・日・祝日の当番の調整である。後半は、当館学芸員による展示解説、古代体験に係る実践研修などを行った。実践研修の内容は以下のとおりである。

定例研修会において、ボランティアイベントの企画や古代体験の取り組み方針など、議題が重なることがあり、時間内での開催が難しくなりつつある。次年度は、ボランティアの中からリーダー、イベント担当を募り、定例研修会の前に議題の確認、調整する時間を確保することとした。

回 数	開催日	実践的研修の内容
第1回	4月8日	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」解説
第2回	5月13日	特集展示「船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具」解説
第3回	6月10日	特集展示「骨を蔵（おさ）める」解説
第4回	7月8日	水中遺跡について
第5回	8月5日	特別展「霊峰英彦山ー神仏と人と自然とー」解説
第6回	9月9日	ボランティアの今後の活動方針について
第7回	10月14日	企画展「大宰府を探索サイエンス」解説
第8回	11月11日	「障がいをもつ子どもへの話し方・接し方」※外部より講師を招く
第9回	12月9日	企画展「発掘速報展2017」解説
第10回	1月13日	企画展「炭鉱と学校の昭和史」解説
第11回	2月10日	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」解説
第12回	3月11日	自主研修中間報告、今後のボランティアイベントの対応について

○バス研修会・交流会

29年度は、平成29年11月14日（火）に有田町歴史民族資料館において、有田町歴史民俗資料館応援団（ボランティア）と交流するとともに、九州陶磁文化館や有田町の史跡を見学した。9：00に九州歴史資料館を出発し、バスで佐賀へ向かう。午前には九州陶磁文化館副館長、「ありた れきみん応援団」による施設展示解説を聞き、歴史への理解を深めた。午後は、異人館（佐賀県重要文化財）にて「ありた れきみん応援団」による解説、応援団との交流を行った。その後、陶山神社を見学、有田町歴史民俗資料館にて館長による展示解説、泉山磁石場（国指定史跡）見学を行った。15：00に有田町を出発、16：30に九州歴史資料館に到着、解散となった。ボランティア20名、九州歴史資料館職員8名参加。

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

土日祝日に実施している古代体験では、これまでのメニューに加え、「クテ打ち組紐技法」習得者がいるときに限り、「本日は組紐ができます」として不定期な古代体験メニューとして取り入れた。また、平日を含めて実施依頼のあった学童保育所、子ども会、デイサービス施設などの団体が来館した際には、館内の案内や「古代体験」に対応した。

29年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。

古代体験アイテム及びバックヤード解説	体験者
「和同開珎をつくろう（鑄造体験）」（有料）	346 名
「ミニチュア銅矛をつくろう（鑄造体験）」（有料）（12 月～）	157 名
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	431 名
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	297 名
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	261 名
「パズル土器（復元体験）」	1, 723 名
「大宰府政庁建物の復元」	446 名
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	762 名
「きゅうおに」のぬりえに挑戦しよう!!	172 名
「きゅうおに」紙芝居	302 名
飛び出すむかしの宝箱	147 名
バックヤード（第4展示室含む）解説	282 名
ぎっちゃん・組紐など	32 名
体験者延べ人数	5, 358 名

○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度から、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事

業」として実施している。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や関連する出土資料のパネルなどを設置して、参加者への歴史・文化の普及に供した。

29年度「ボランティアイベント」の実施は、以下のとおりである。

・「おりがみでカブトを作ろう！ぎっちゃんを体験してみよう！」

期日：平成29年4月29日（土）

内容：五月の節句に合わせ、毎年恒例になったイベントである。屋外の「ぎっちゃん」と屋内の「カブト」製作を組み合わせ、館内外どちらのメニューも楽しんでもいただける内容とした。親子での参加もあり、参加者数は18名であった。

・「こども組紐教室」

期日：平成29年8月3日（木）

内容：24～26年度の研修によってボランティアが習得した「クテ打ち組紐技法」を活用し、27年度からこどもを対象に実施している体験講座である。道具を使わず指だけで組紐ストラップを作る技術を要するもので、慣れるまでは時間がかかるが、作り方を習得すれば糸の組み合わせを変えるだけで独自のストラップを完成させることができる。参加者は、最初は指を動かす順番などに苦労していたものの、覚えた後はいくつものストラップを作っていた。参加者数は26名であった。

・「冬の組紐教室」

期日：平成29年12月16日（土）

内容：夏休みに実施された「こども組紐教室」が盛況であり、冬も実施することになった。組紐は古代体験の中でも人気メニューのひとつであり、ボランティア内でも制作の補助にあたる人数が増えつつある。参加者数は10名であった。

・2月25日（日）世界でひとつ！「作ってみようよ！『My おひなさま』『組紐ストラップ』」

内容：ひな祭りの季節に合わせ、毎年恒例になったおりがみによる自分だけのひな飾り作り、また組紐技法でストラップを作るイベントを開催した。ボランティアのアイデアで年々装飾や折り方が豪華になっており、参加者も増えている。親子連れや年配の方々も楽しまれ、28年度は50名であった参加者数が256名に増えた。



「こども組紐教室」ボランティアによる説明



体験の様子

(6) 普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内などを実施することで、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

◎講座・講演会

○九歴講座

毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。29年度は延べ1,096名の方が受講した。

開講日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演題	講師（所属）	受講者数
第1回	4月8日	近年の大宰府史跡の発掘調査―蔵司地区―	下原 幸裕（当館）	93名
第2回	5月13日	筑後地域の中近世城館―詳細分布調査の成果から③―	岡寺 良（当館）	142名
第3回	6月10日	遺跡からみた弥生時代の日韓交流	山崎 頼人（小郡市教育委員会）	135名
第4回	7月8日	ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」と福岡県	久野 隆志氏（世界遺産登録推進室）	92名
第5回	8月5日	霊峰英彦山の神仏の姿	井形 進（当館）	101名
第6回	9月9日	史跡「英彦山」の領域と聖域	岩本 教之氏（添田町）	84名
第7回	10月14日	大宰府木簡の自然科学的調査成果	酒井 芳司（当館）	160名
第8回	11月11日	大友家文書の世界	田渕 義樹氏（柳川古文書館）	74名
第9回	12月9日	湖底に沈む遺跡たち―五ヶ山ダム建設に伴う発掘調査の成果―	岩満 聡氏（那珂川町教育委員会）	42名
第10回	1月13日	女男石護岸施設と朝倉地域の治水と利水	中島 圭氏（朝倉市教育委員会）	57名
第11回	2月10日	歴史遺産としての求菩提山の保存と活用	栗焼 憲児氏（求菩提資料館）	40名
第12回	3月10日	福岡県の庭園文化	正田 実知彦氏（県文化財保護課）	76名
受講者数総計				1,096名



九歴講座

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第4土曜日に実施する全12回の連続講座である。通年のテーマは「日本古代史の諸問題」である。定員160名に対し202名の受講申し込みを受けた。また、前年度に引き続き、12回すべてを受講した受講生55名に皆勤賞表彰を行った。

開講日、演題、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演題	受講者数
第1回	4月22日	首長墓の出現と王墓の形成過程	191名
第2回	5月27日	奴国の王墓と「漢委奴国王」金印	172名
第3回	6月24日	墳丘墓と前方後円墳	173名
第4回	7月22日	巨大古墳と技術革新の世紀	168名
第5回	8月19日	「神宿る島」宗像・沖ノ島と神社、古墳	178名
第6回	9月30日	筑紫君磐井の乱の背景	171名
第7回	10月28日	装飾古墳と高句麗の壁画古墳	144名
第8回	11月25日	元岡G6号墳出土の庚寅年銘金象嵌大刀	172名
第9回	12月23日	大宰府の成立過程	135名
第10回	1月27日	古代山城の諸問題	152名
第11回	2月24日	泰山における封禅	136名
第12回	3月24日	日本出土のイスラム陶器	156名
		受講者数総計	1,948名

○九歴ゼミ

第2・第4水曜日の夜18:30～20:00（18:00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。4～6月、7～9月、10～12月の年間3期、各期6回ずつ開講した。毎回多数の応募があり、可能な限り受け入れる方向で対応した。結果、本年度は応募者全員を受講生とした。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

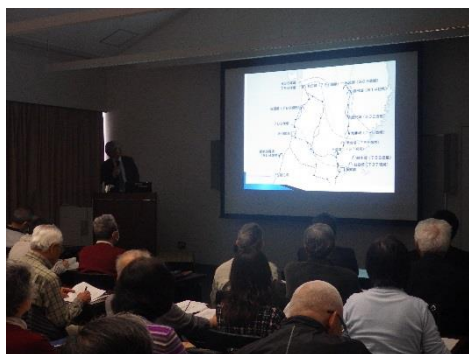
期	開催期間	演題	講師	延べ受講者数
第1期	4月12日～6月28日	斉明天皇と天智天皇の時代	小田 和利	527名
第2期	7月5日～9月27日	大宰府・太宰府天満宮資料を読む～大宰府の歴史編～	酒井 芳司	372名
第3期	10月11日～12月20日	大宰府・太宰府天満宮資料を読む～菅原道真の生涯編～	松川 博一	424名
受講者延べ数総計				1,323名

○特別展・企画展記念講演会

特別展や企画展の開催を記念して講演会を実施した。

29年度は5回開催し、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数
8月6日	特別展関連講座 「山伏が語る峰入り」	小川泰樹（九州歴史資料館）	55名
8月20日	特別展開催記念講演会 「英彦山の山岳信仰と修験道」	長野覚氏（元駒沢大学教授・日本山岳修験学会顧問）	148名
10月21日	企画展「発掘速報展 2017」調査報告会	弓削田仁氏（五ヶ山ダム事務所） 伊崎俊秋（当館）	70名
11月3日	企画展開催記念 「文化財の保存科学 100年」	沢田正昭氏 （東北芸術工科大学文化財保存修復センター長・教授）	80名
11月5日	企画展開催記念 「福岡県の城郭研究の歩み」	廣崎篤夫氏（名誉博士（歴史学））	124名
3月18日	大宰府史跡発掘 50 年記念特別展プレ講演会「古代国家と道」	市大樹氏（大阪大学准教授） 近江俊秀氏（文化庁文化財調査官）	200名
受講者数総計			677名



大宰府史跡発掘 50 年記念特別展プレ講演会「古代国家と道」

○タペのギャラリートーク

当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。24年度からの新規事業として、当館の学芸員が、展示を担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18:30より再度開館、ギャラリートークは19:00より20:00までとしていたが、参加者の利便性等を再考し、平成29年度よりプレミアムフライデー（毎月最終金曜日）の実施とし、開催時間も閉館直後の16:30から17:30までとした。

29年度は6回実施し、開催日、内容、講師、参加者数は以下のとおりである。

回	開催日	内容	講師	受講者数
第1回	6月30日	特集展示「骨を蔵める」 「懐かしの旧福岡県庁」	岡寺 良 渡部邦昭	18名
第2回	8月25日	特別展「霊峰英彦山」	井形 進	28名
第3回	10月27日	企画展「福岡の城」	岡寺 良	20名
第4回	11月24日	企画展「大宰府を語るサイエンス」	加藤和歳 酒井芳司	17名
第5回	1月26日	企画展「炭鉱と学校の昭和史」	渡部邦昭	13名
第6回	2月23日	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」	井形 進	14名
参加者数総計				110名

○出前講座

県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」や放送大学など、県民の要請を受けて計 38 回の講座に赴いた。

29 年度の実績は以下のとおりである

期日	依頼者	内容	講師	参加者
5 月 13 日	邪馬台国まつり実行委員会	やはり邪馬台国は朝倉にあった	小田和利	70 名
5 月 15 日	小郡ロータリークラブ	朝倉宮研究最前線	小田和利	80 名
6 月 18 日	甘木歴史資料館	トークセッション「朝倉宮の謎を探る」	小田和利 酒井芳司	330 名
6 月 11 日	いのちのたび博物館歴史友の会	水城跡・大宰府跡見学案内	小澤佳憲	40 名
6 月 22 日	山口ちょっといい会（高年クラブ）	筑紫君磐井の乱	酒井芳司	30 名
7 月 20 日	柳川市郷土史会大和部会	朝鮮式山城と神籠石式山城	小澤佳憲	26 名
8 月 10 日	太宰府公民館	大宰府史跡について	小田和利	80 名
8 月 28 日	筑紫南高年クラブ	宝満山の歴史	酒井芳司	40 名
9 月 11 日	水巻町中央公民館	大宰府と万葉集	松川博一	30 名
9 月 14 日	立石コミュニティセンター	大宰府史跡について	小田和利	21 名
9 月 19 日	ちくしの高年大学	磐井の乱と豪族たち	酒井芳司	20 名
9 月 19 日	教育庁 市町村立学校事務職員等研修会	大宰府史跡について	小澤佳憲	260 名
9 月 23 日	ひみこ講座	福岡県の中近世城館①	岡寺 良	20 名
10 月 11 日	北九州市立年長者研修大学校	大宰府と天神信仰	松川博一	42 名
10 月 16 日	福岡県立図書館	福岡県の幕末維新	渡部邦昭	30 名
10 月 17 日	ちくしの高年大学	大宰府の成り立ち	酒井芳司	20 名
10 月 26 日	東国分校区まちづくり振興会	高良山神籠石と古代山城	小田和利	20 名
10 月 28 日	ひみこ講座	福岡県の中近世城館②	岡寺 良	20 名
11 月 3 日	太宰府市文化ふれあい館	大宰府発掘 50 年を振り返って	小田和利	80 名
11 月 3 日	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議	福岡鉄道遺産ものがたり	渡部邦昭	10 名
11 月 13 日	水巻町中央公民館	大宰府と遠賀郡	松川博一	30 名
11 月 14 日	つくし郷土史会	大宰府と万葉集	松川博一	30 名
11 月 18 日	放送大学面接授業 大宰府講座	大宰府の保存	伊崎俊秋・小澤佳憲	40 名
11 月 19 日	放送大学面接授業 大宰府講座	大宰府巡検	小澤佳憲・井形進	40 名
11 月 23 日	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	南筑後の鉄道の歩み	渡部邦昭	20 名
11 月 25 日	ひみこ講座	福岡県の中近世城館③	岡寺 良	15 名
11 月 26 日	久留米市生きがい健康づくり財団	筑紫君磐井の乱	酒井芳司	72 名
11 月 29 日	古都大宰府保存協会	大宰府と万葉集	松川博一	50 名
11 月 30 日	筑前町史跡ガイドボランティアサークル	朝倉軌道と北筑後の鉄道の歩み	渡部邦昭	18 名
12 月 3 日	久留米市生きがい健康づくり財団	斉明天皇	小田和利	70 名
12 月 10 日	久留米市生きがい健康づくり財団	白村江の戦と天智天皇	小澤佳憲	65 名

期日	依頼者	内容	講師	参加者
12月16日	粕屋町教育委員会・粕屋町立歴史資料館	磐井の乱後の倭王権の九州支配	酒井芳司	64名
12月17日	久留米市生きがい健康づくり財団	大宰府と菅原道真	松川博一	72名
1月20日	小郡市埋蔵文化財調査センター	天神縁起絵の世界	松川博一	46名
2月19日	久留米市山川校区郷土研究会	大宰府史跡について	小澤佳憲	20名
2月20日	久留米市上津校区まちづくり振興会	大宰府と菅原道真	松川博一	35名
2月27日	つくし郷土史会	懐かしの旧福岡県庁	渡部邦昭	30名
3月3日	筑紫野市	大宰府史跡について	小澤佳憲	50名
受講者合計				2,036名

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による中庭回廊や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また施設の解説については、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体を中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用したいという団体も利用されている。

29年度は24団体、延べ648名の方々に案内を行った。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見るができるコーナーである。土・日・祝日限定で、収蔵品の活用・公開の促進を図るため、「飛び出すむかしの宝箱」として来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見るができるコーナーを設け、多様な閲覧希望に対応している。実施日に閲覧希望者が申請すれば、収蔵品に触れることができるとともに、埋蔵文化財担当者から解説を聞くこともできる。開催中の企画展等の展示内容に対応してメニューの追加を図っており、現在5メニュー各12点、計60点を公開している。

平成29年度の利用状況は次のとおりで、昨年度に引き続き発掘速報展メニューの利用者が最も多い。次いで多いのがこれも昨年同様に縄文時代メニューで、通常は気軽に手にできない古代の遺物に触れられる点が人気の要因であろう。

個別資料ではもっとも利用者が多いのが打製石鏃（縄文時代メニュー）、次いで磨製石剣（発掘速報展メニュー）、火縄銃弾（戦国時代メニュー）となっており、武器、武具に人気がある。今後も利用実績を鑑みながら随時メニューの見直しを図ることとしている。

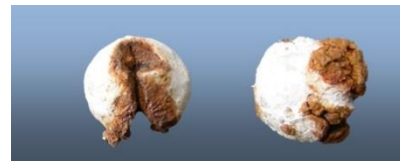
メニュー	利用件数
発掘速報展メニュー	317 名
明治・大正・昭和メニュー	155 名
縄文時代メニュー	270 名
戦国時代メニュー	202 名
江戸時代メニュー	143 名
利用者数総計	1,087 名



打製石鏃



磨製石剣



火縄銃弾

◎体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

29年度も恒例の夏休みを中心に小学生などを対象とした体験教室や七夕イベントのほか、他機関や団体との連携イベントなども開催した。連携事業としては、小郡市観光協会と共催で実施した「西鉄レール&ハイク 小郡バザール」が新たに加わった。

◎イベント

○桜コンサート

期日：平成29年4月2日（日）10：00 ～ 15：00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会・三国小学校区協働のまちづくり協議会・のぞみが丘小学校区協働のまちづくり協議会

内容：28 年度から共催で実施しているイベントである。

地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型のコンサートである。数々の音楽好きの方々が、中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。また、当館の古代体験も知ってもらえる機会となり、多くの方が体験を楽しまれた。参加者は759名であった。



桜コンサート

○西鉄レール&ハイク

期日：平成29年4月1日（土）9：30～14：00

内容：今年度から始まった小郡市観光協会と共催で、本館を西鉄レール&ハイクのゴール地点とし、前面の芝生広場に小郡市観光協会が小郡バザールを開いた。参加者は1,101名であった。

○小郡高等学校琴部演奏会

期日：平成29年5月3日（水・祝）14：00～15：00

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて練習を行う本格的な活動をされている。当館の移転開館記念セレモニーやイベントでの演奏がご縁で、27年度から卒業演奏会当館を会場に開催している。当日は第4展示室を会場に赤い毛氈を敷き、15名の生徒と教員による優美な琴の演奏が行われ、参加者は150名であった。



小郡高校琴部演奏会

○きゅうれき七夕イベント

期日：平成29年7月2日（日）10：00～16：00

内容：当イベントは、幅広い層に楽しんでいただく内容にすることで、地域の方々に来館してもらい、当館の事業を理解してもらう機会としたものである。本年度は、福岡で活動するアイリッシュハープ奏者、はるるさんによる「ハープコンサート」、デフボディパーカッションクラブの2つをメインに、「七夕の里おごおり」にちなみ機織をはじめとする古代体験で構成した。



七夕イベント「機織り体験」



七夕イベント「古代体験」

○Q歴TAIKENマイスター

期日：平成29年8月3日（木）13：30～15：30

内容：博物館こども古代体験推進事業の一つとして、九歴ボランティア主催で組紐教室を実施した。当館では、平成24～26年度の3年間に、「クテ打組紐技法」を後世に伝える指導者を育成することを目的とした講座を開催し、平成27年度からボランティアの組紐教室を開始したものである。事前準備や当日の解説及び技術指導を九歴ボランティアが主体となり、博物館こども

古代体験推進事業事務局と協議しながら開催した。

○なるほど！こども歴史教室2017「山伏のひみつ～ほら貝の笛を作ってみよう！～」

期日：平成29年8月18日（金）13：30～15：30

内容：今年度の特別展「霊峰英彦山―神仏と人と自然と―」の子供向け関連イベントとして開催し、27名の参加者があった。まず研修室において、羽黒山での峰入り経験がある当館職員が、山伏装束や諸道具を身に着け山伏について解説を行った。その後展覧会会場に移動し、実際に英彦山で用いられた道具類を鑑賞した。最後に第4展示室の古代体験コーナーに移動し、特別展担当学芸員の指導のもと、法螺を制作した。制作方法は、マスキングテープで先端を切除したイトマキボラと吹口の塩ビ管をつなげるものだが、これは家庭でも再現が容易であること、また洗浄がしやすいことなどを考え採用した。完成後は実際に吹いて音を鳴らし、毛糸で網袋の制作を行った。網袋は難易度が少し高かったようだが、多くの子が法螺で音を鳴らすことができた。



法螺製作風景



製作した法螺貝

○ナイトミュージアム in きゅうれき 夏

期日：平成29年9月2日（土）18：00～21：00

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、夏休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、天体観測など多彩な活動を実施した。25名が参加した。

○文化財めぐりバスツアー「霊峰英彦山をめぐる」

期日：平成29年9月10日（日）10：00～17：30

内容：九州歴史資料館では、平成29年8月5日

（土）から9月24日（日）の会期で、特別展「霊峰英彦山」を開催しており、これを記念して、実際に英彦山に足を運び、文化財に触れ、歴史を感じてもらうバスツアーを開催した。学芸員が同乗し、英彦山神宮奉幣殿や修験道館、財蔵坊（添田町歴史民俗資料館）を見学した。43名が参加した。

○イベント「特別展「霊峰英彦山」開催記念茶会」



ナイトミュージアム「火起こし体験」

期日：平成29年9月24日（日）10：00～15：00

内容：九州歴史資料館では、平成29年8月5日（土）から9月24日（日）の会期で、特別展「壺峰英彦山」を開催した。その開催を記念して企画した本茶会は、小郡市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、共催の連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。

今回も、その開催記念行事とすることで、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。なお、当日は添田町商工業振興係による物産販売も実施し、511名が参加した。



記念茶会



添田町商工業振興係による物販

○アクロスミュージアムコンサート

期日：平成29年11月19日（日）11：30～15：30

内容：特別展開催記念イベントとして、アクロス福岡との共催事業で実施している事業である。29年度は秋に3つの企画展「発掘成果展2017 五ヶ山～山の暮らし、いのり、そして埋蔵金～」 「大宰府を巡るサイエンス」 「福岡県の城～戦国乱世の城から幕藩体制の城へ～」が開催され、その開催を記念して、恒例となったアクロス福岡との共催事業「アクロスミュージアムコンサート in 九州歴史資料館」を開催した。

博物館でプロのアーティストによる本物の音楽に触れていただくという機会をすることで、当館に親しんでいただくとともに、企画展を観覧いただき、企画展のギャラリートークを行うことで、より深く展示品を理解していただき、本県の歴史や文化への理解の深化と文化財保護思想の普及に資することを目的とした。

「福岡県の城」にあわせて「荒城の月」や『天空の城ラピュタ』、『ハウルの動く城』など城にまつわる著名な音楽を、管楽器のカルテットで奏でいただいた。また併せて特別展のギャラリートークも行い、参加者は150名であった。



アクロスミュージアムコンサート

日程	プログラム
11：30～12：00	ギャラリートーク Part. 1（第1展示室）
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
14：15～14：35	ギャラリートーク Part. 2（第1展示室）
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部

○ナイトミュージアムinきゅうれき 冬

期日：平成30年1月5日（金）18：00～21：00

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、冬休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、収蔵品に触れる体験や天体観測など多彩な活動を実施した。12名の参加があった。

○おもちゃ病院in九州歴史資料館

期日：平成30年2月25日（日）10：00～15：30

内容：当館では、様々なイベントを開催して子どもたちに博物館に親しんでもらう機会としている。同日に開催するボランティアイベント「世界でひとつ！『My おひなさま』『組紐ストラップ』」にあわせて、地元のおもちゃ修理ボランティア団体と連携し、当館でおもちゃ修理を行った。ボランティアイベントと合わせて256名が参加した。

○体験！ワクワクものづくりイベント

期日：平成30年3月3日（土）・3月11日（日）・3月17日（土）13：30～15：30

内容：このイベントは、小郡の地では体験できにくいものづくりを行うことで、小郡の地に根付いた博物館であることを認知し、楽しんでいただくことを通して今後のさらなる来館者増への足がかりとすることを目的として実施した。

3月3日には太宰府木うそ保存会の青柳建夫さんによる木うその絵付け体験、3月11日にはランタン作家の三上真輝さんによるランタン作り、3月17日には名刺工房「まつお」の松尾さんによる手すき和紙作りを行い、それぞれ31名・18名・34名、計83名が参加した。

○イベント「神話の世界2～朗読・神楽×太鼓」

期日：平成30年3月4日（日）13：30～15：30

内容：当館の展示資料のみならず、身近な「歴史」や「文化財」に親しんでいただくことを目的として、様々なイベントを試みている。本イベントは通年開催していないが、次年度の開催事業の広報・周知も含めて「神話」や「伝承」をテーマとして3月に開催した。井芹美穂氏による「古事記」朗読と、「国指定無形民俗文化財「豊前神楽」から派生した、各神楽保存会の若手の舞手で構成する神楽集団「若楽」と豊前天狗太鼓のコラボレーションパフォーマンスである。昨年度の



神楽集団「若楽」と豊前天狗太鼓によるパフォーマンス

同時期に実施したこのイベントが好評であり、その後のイベントにおけるアンケートにも実施の希望があったことから、同じ内容で開催し、350名が参加した。

○“古代米の本格栽培にむけて…”プロジェクト

期間：平成 29 年 6 月～10 月

内容：当館には、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないでいるが、将来的なイベント実施に備え、24 年度からパンケースあるいはコンテナによる古代米栽培を実施している。29 年度は、コンテナ 6 箱分の赤米・黒米（原種は長崎県対馬のもの）栽培を当館の中庭にて、学芸研究班員と保存管理班員の担当の元に行った。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育し、収穫まで至ることができた。6 年目の実施となり、収量の安定など、コンテナによる古代米栽培のノウハウが蓄積されてきている。30 年度以降も実施する予定である。

○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：九州歴史資料館・久留米まち旅博覧会事務局

「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、地元暮らし人々が普段から慣れ親しんだ地域のたからもので、自らが訪れる人をもてなす手づくりの旅プランをコンセプトに行っている。当館は平成 26 年度から「いつでもまちたび」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと有料の古代体験（和同開珎鋳造）を提供している。参加人数は約 20 名であった。

◎その他の機関・団体との共催事業

○第 7 回九州山岳霊場遺跡研究会「英彦山—信仰の展開と転換—」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：九州歴史資料館

後援：英彦山神宮・添田町・日本山岳修験学会

期日：平成 29 年 8 月 26 日（土）・27 日（日）

参加人数：1 日目 54 名・2 日目 143 名

内容：8 月 26 日（土）

現地研修会（英彦山神宮・座主院ほか境内）

8 月 27 日（日）

研究集会（於：九州歴史資料館）

特別講演「英彦山研究を振り返って」（長野 寛）

特別報告「史跡「英彦山」の調査の概要と視点」（岩本教之）

研究報告 1「英彦山の幕末維新 神仏分離前後を中心として」（西山紘二）

研究報告 2「近現代における英彦山信仰の＜分散＞と＜統合＞」（須永 敬）

研究報告 3「英彦山の仏像と廃仏毀釈」（井形 進）

研究報告 4「宗教史の立場からみた彦山信仰の諸問題」（山本義孝）

シンポジウム「英彦山と神仏分離を考える」



九州山岳霊場遺跡研究会

◎放送大学面接授業「大宰府講座」

主催：放送大学・九州歴史資料館

期日：平成29年11月18 日（土）・19 日（日）

内容：当館では大宰府の歴史・文化を幅広く知っていただくという趣旨の下に、19 年度から放送大学の面接授業を実施している。29年度は「大宰府史跡の保存と活用」というテーマで授業を行った。受講者数は37名であった。詳細は以下のとおりである。

【1 日目】11月18日（土）

1 時限：「近世における大宰府史跡の保存」

（講師：九州国立博物館 一瀬智）

2 時限：「近現代（発掘調査開始以前）における大宰府史跡の保存」

（講師：九州歴史資料館 伊崎俊秋）

3 時限：「大宰府史跡の発掘調査」

（講師：九州歴史資料館 小澤佳憲）

4 時限：「大宰府関連史跡の保存と活用-現在から未来へ-」

（講師：大宰府市教育委員会 高橋学）

各講義では、30 年度に発掘 50 年を迎える大宰府史跡について、近世・近代の保存運動と昭和 43 年以降に行われた発掘調査の成果、近年の保存・活用を巡る状況と今後のあり方についての講義を行った。

【2 日目】11月19日（日）

1～4 時限：現地研修（大宰府天満宮・観世音寺・大宰府政庁などの見学）

◎九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として 25 年度に発足した NPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を 29 年度も開催した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである

開催日	内容	参加人数
12 月 17 日（日）	燐を作るマイキャンドル（共催）	64 名

(7) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っている。また展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、他施設の広報資料を設置しての幅広い情報提供を行うなど、当館が情報の発信源となるような工夫を行っている。また、地元のケーブルテレビと連携した番組「福岡歴史ロマン」も月1回のペースで製作した。

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、25年度から文化情報広場に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク（福岡県・佐賀県・長崎県と3県内11市町村の連携事業）」の紹介コーナーを設け、パンフレットやチラシを常時更新している。28年度は県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

○夏休みこども企画「県庁ロビー展示」

主催：福岡県県民情報広報課

会期：平成29年8月1日～8月25日

会場：福岡県庁 1階ロビー

内容：福岡県の主催の夏休みイベントで、各課や出先機関がブースを設けて来庁することも対象のパネル展示や体験事業を実施するものである。当館は「きゅうおにとタイムトラベル」のをうち、縄文時代と弥生時代の2枚のイラストパネルを掲示し、どこが違いか探してもらった。併せて、大宰府政庁の屋根に葺かれた大宰府式鬼瓦の実物大石膏レプリカを展示し、自由に触ってもらい立体感と質感を感じることができる展示を行った。



県庁ロビー展

○県政PR展示

主催：福岡県立図書館

会期：平成 29 年 11 月 1 日～11 月 9 日、11 月 25 日～12 月 3 日、平成 30 年 1 月 13 日～1 月 30 日

会場：福岡県立図書館 1 階ロビー

県立図書館では、本館 1 階第 1 閲覧室で県政に関わる PR 活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。今年度は、企画展「福岡県の城」「大宰府を探るサイエンス」について、平成 29 年 11 月 1 日から 9 日、11 月 25 日から 12 月 3 日に、「炭鉱と学校の昭和史」は平成 30 年 1 月 13 日～1 月 30 日に展示し、ポスターの展示やチラシ等の配布を行った。

○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を 1 校でも多く、1 人でも多く体験してもらえよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。

年度初めの小郡市校長会をはじめ学校支援に向けた広報資料「小学校・中学校による活用のご案内」の配布、学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。

28年度の活用実績が来館学習13校、スクールミュージアム事業7校、職場体験13校、出前授業1校に対し、29年度は来館学習13校、スクールミュージアム事業4校、職場体験8校、出前授業0校（豪雨により中止）であった。今後も、更に多くの学校による活用をめざしていきたい。

このほか 29 年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ホームページの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店・ホテル等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおり・クロスロード福岡 ほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「日本歴史」「古代文化」各種フリーペーパー ほか
- ・情報サイトへの情報提供：インターネットミュージアム・イベントガイド・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・地元ケーブルテレビ番組新番組「福岡歴史ロマン」毎月配信

なお、館のアピールを行うため、新たに「福岡県観光パスポート（ふくおかよかこパスポート）」と「SUNQ（サンキュー）パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「SUNQ（サンキュー）パス」は九州・山口下関周辺部の事業者が運行する高速バス・一般路線バスが 3 日間（もしくは 4 日間）乗り放題になるフリーパスであり、「SUNQ パス」ガイドブックに館の紹介を掲載した。

(8) 実習・研修

◎実習

○博物館実習

29年度は6大学から9名の大学生を受け入れ、8月15日（火）～8月25日（金）の10日間、下記の内容で実施した。（8月20日（日）は休み）

日 程	午前	午後	担当
第1日	開講式・オリエンテーション 西谷正名誉館長講話	講話「学芸員の実務」 施設見学	広報普及班 学芸研究班
第2日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第3日	出土資料の整理・記録		調査研究班
第4日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第5日	博物館の教育普及	名誉館長講座受講	広報普及班
第6日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第7日	資料の保存修復と保管		学芸研究班
第8日	歴史資料の取り扱い		広報普及班・学芸研究班
第9日	考古資料の取り扱い	資料の写真撮影	学芸研究班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ・閉講式	保存科学班・広報普及班

大学名	学部名	学科名	実習生(名)
久留米大学	文学部	国際文化学科	2
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	1
佐賀大学	文化教育学部	人間環境過程	1
福岡大学	人文学部	文化学科	1
		人文科学研究科専攻	1
西南学院大学	国際文化学部	国際文化学科	2
京都府立大学	文学部	歴史学科	1

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

◎平成29年度福岡県文化財担当職員研修「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」

県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした全10回の基礎研修を29年度に初めて実施した。参加者は述べ264人。開催日や講義内容については以下のとおりである。



「埋蔵文化財発掘基礎研修」研修内容

回	開催日		テーマ	内容			
1	5 月 12 日	埋文事務手続き	埋蔵文化財に関する法律	講義	文化財保護法・関連法令		
			埋蔵文化財事務手続き		事務手続きの流れ、九州地区基準・県取扱要綱		
					事前審査		
					試掘確認調査		
					埋蔵文化財関連国庫補助事業		
2	6 月 16 日	発掘調査	事前準備	講義	発掘調査着手にかかる諸手続き		
					着手前の現地確認		
					調査計画の策定		
					作業員の募集と雇用		
		本調査	安全衛生管理				
			機材搬入				
			表土剥ぎ				
			遺構検出				
			遺構掘り下げ				
			図化				
			写真撮影				
		事後処理	撤収・埋め戻し～引渡し 終了後の保護法上の手続き等				
3	7 月 14 日	個別遺構の調査	講義	カマド、甕館、古墳等の調査			
					図化実技	実習	トータルステーション
							レベル
							平板測量・コンター図作成
4	8 月 10 日	図化実技	実習	1/20 図化			
5	9 月 8 日	発掘調査実技	実習	杭打ちから 1/20 図化まで			
6	10 月 13 日	整理・報告書	整理・報告書作成	講義・実習	整理事業の流れ		
				講義・実習	遺構割付、遺物割付		
				講義	文章の作成、編集、入稿、校正		
7	11 月 10 日	実測	実習	土器実測			
8	12 月 18 日	実測・拓本	実習	石器、金属器等実測 拓本			

回	開催日		テーマ	内容	
9	1月12日	作成	トレース	講義・ 実習	トレースの方法
			トレース（アナログトレース）		
			写真撮影	講義・ 実習	写真撮影の方法
					写真撮影（遺物写真）
10	2月9日	保存 管理	特殊遺物の対応	講義	特殊遺物の対応
			遺物、記録類の保存管理		遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際
					整理後の遺物と記録類の保存管理と活用
				視察	遺物、記録類の保存管理と保存処理の事例

(9) 刊行物

29年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 43』	3月
2	『九歴だより NO. 45』	4月
3	『九歴だより No. 46』	10月
4	『霊峰英彦山―神仏と人と自然と―』	8月
5	『大宰府を探索サイエンス』	10月
6	『福岡県の城―戦国乱世の城から幕藩体制の城へ―』	10月
7	『堅粕薬師と東光院の古仏たち』	2月
8	『九州歴史資料館解説シート 63 船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具 2016-2017』	4月
9	『九州歴史資料館解説シート 64 骨を蔵める―古代・中世の火葬骨壺―』	5月
10	『九州歴史資料館解説シート 65 発掘された大宰府の中世寺院―太宰府市推定金光寺跡の発掘調査―』	5月
11	『九州歴史資料館解説シート 66 懐かしの旧福岡県庁』	5月
12	『九州歴史資料館解説シート 67 福岡鉄道遺産ものがたり 5～日田英彦山線・筑豊本線編～』	8月
13	『九州歴史資料館解説シート 68 炭鉱と学校の昭和史』	12月
14	『九州歴史資料館解説シート 69 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018』	3月
15	『大宰府政庁周辺官衙跡 X I ―広丸地区 遺物編―』	3月
16	『福岡県文化財調査報告書 第261集 伊良原Ⅶ』	3月
17	『福岡県文化財調査報告書 第262集 伊良原Ⅷ』	3月
18	『福岡県文化財調査報告書 第263集 彼岸田遺跡 I』	3月
19	『福岡県文化財調査報告書 第264集 上町遺跡 2次調査』	3月
20	『福岡県文化財調査報告書 第265集 本町遺跡』	3月
21	『福岡県文化財調査報告書 第266集 山城遺跡群 片島遺跡群』	3月
22	『福岡県文化財調査報告書 第267集 津島福市遺跡』	3月
23	『古代都市大宰府の研究』	3月
24	『木簡による大宰府の西海道統治の実態に関する研究』	3月
25	『大宰府管内出土陶硯の科学的分析的研究』	3月
26	『九州に偏在する中国系彫像についての基礎的研究―薩摩塔と宋風獅子の基準設定にかかる考察―』	3月

(10) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

○韓国国立文化財研究所への職員派遣

期 間：平成 29 年 11 月 6 日（月）～11 月 17 日（金）（12 日間）

派遣職員：福岡県教育庁九州歴史資料館 主任技師 小林啓

研修内容：大韓民国国立文化財研究所及び国立博物館の保存科学関連施設を中心に視察し、保存処理・機器の配備状況、科学的分析における倫理観等について検討した。また、当地で研究発表を行い、半島出土の考古資料における構造や技法について理解を深めた。

主な訪問先：

- < 1 日目 > 大韓民国国立文化財研究所・国立文化財研究所保存科学センター
- < 2 日目 > 大韓民国国立公州博物館
- < 3 日目 > 大韓民国国立羅州文化財研究所
- < 4 日目 > 大韓民国国立海洋文化財研究所・大韓民国国立海洋博物館
- < 5 日目 > 大韓民国国立慶州文化財研究所・大韓民国国立慶州博物館
- < 6 日目 > 国立文化財研究所保存科学センター
- < 7 日目 > 国立文化財研究所保存科学センター
- < 8 日目 > 国立慶尚大學博物館
- < 9 日目 > 大韓民国国立金海博物館・大韓民国国立大伽耶博物館
- < 10 日目 > 大韓民国国立中央博物館
- < 11 日目 > 大韓民国国立文化財研究所・国立文化財研究所保存科学センター
- < 12 日目 > 大韓民国国立文化財研究所

○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期 間：平成 30 年 2 月 1 日（木）～2 月 14 日（水）（14 日間）

派遣職員：大韓民国国立中原文化財研究所 学芸研究士 韓志仙

派遣内容：古代日韓文化交流関係遺物研究（製鉄関係遺物・韓式土器を中心に）

○日韓学術文化交流事業講演会

期日：平成 30 年 2 月 13 日（火）

会場：九州歴史資料館

講演：韓志仙（大韓民国国立中原文化財研究所学芸研究士）

「韓国製鉄文化の検討および製鉄復元実験の簡略報告」

小林啓（福岡県教育庁九州歴史資料館主任技師）

「日韓馬冑の構造比較―船原古墳馬冑を対象とした比較研究―」

(11) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

平成 29 年 8 月 29 日（火）に森会長ほか 8 名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 平成 28 年度事業報告及び入館者数状況報告
- 2 平成 29 年度事業計画及び予算概要協議

九州歴史資料館協議会委員名簿

平成 29 年 6 月 1 日現在

	氏 名	所 属
(会長)	森 醇一朗	久留米大学比較文化研究所客員教授
(副会長)	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館副館長
委 員	河上 信行	河上建築事務所所長
	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	福田 千鶴	九州大学基幹教育院教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	木村 甚治	太宰府市教育委員会教育長
	瓜生 郁義	桂川町教育委員会教育長(前桂川町立図書館長)
	高妻 洋成	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
	松枝 昭生	小郡市立大原中学校長
	熊谷 久子	春日市立須玖小学校長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館
昭和50年9月4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催

平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年 4 月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40 周年記念事業開催（～ 12 月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成22年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府ーその栄華と軌跡ー」開催（～ 1 月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道ー古代の役所と人々のくらしー」 開催
平成23年 2 月	常設展公開開始
平成23年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年 7 月25日	登録博物館（第22 号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～ 12 月）
平成24年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成24年10月	特別展「長崎街道ー世界とつながった道ー」開催（～ 12 月）
平成25年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成25年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務 室に総務班設置
平成25年 9 月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈りー九州の覇権のゆくえー」開催（～ 11 月）
平成25年10月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成26年 1 月	企画展「五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」開催（～ 2 月）
平成26年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～ 9 月） 企画展「水城築堤1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催 （～ 9 月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界ー北部九州に華ひらいた信仰と造形ー」開催 （～ 11 月）
平成26年11月	入館者10 万人達成記念式典
平成27年 9 月	企画展「貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー」開催（～ 10 月）
平成27年10月	大野城築城1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の1350 年ー大野城から祈りの山へー」開催（～ 12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催

平成 28 年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11 月）
平成 28 年 11 月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1 月）
平成 29 年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～9 月）
平成 29 年 10 月	企画展「福岡県の城」（～12 月）
平成 30 年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」（～4 月）

（２）施設概要

- 1) 本 館 棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上 2 階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、
特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 敷 地 面 積 43,438.62 m²
- 3) 延床面積 9,475.92 m²
- 4) 一般収蔵庫棟 鉄骨造
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 5) 建 設 費 約 36 億円（本館・一般収蔵庫）

（３）予算

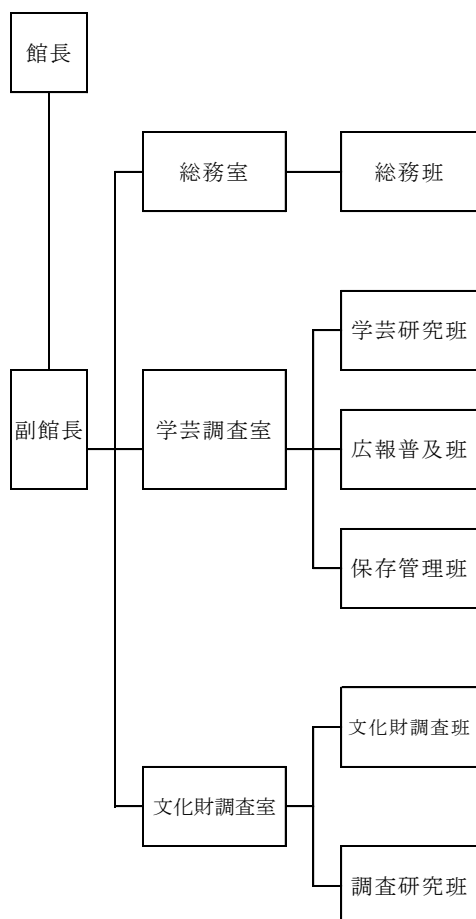
九州歴史資料館の事業費総額は 192,773 千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	171,290 千円
	資料館運営費	108,000 千円
	歴史資料調査研究費	1,541 千円
	歴史資料等収集整備費	732 千円
	資料館展示費	1,720 千円
	特別展示事業費	8,983 千円
	県史史料管理公開事業費	9,006 千円
	九州歴史資料館整備費	41,308 千円
2	文化財保護費	21,483 千円
	大宰府史跡発掘調査費	21,483 千円

※執行委任事業は除く

(4) 組織・職員 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		杉 光 誠	非常勤
副館長		飛 野 博 文	
総務室	企画主幹	田 嶋 朋 子	総務室長
	総務班	企画主査	中 村 満喜子
		事務主査	林 田 朋 子
		主任主事	原 野 貴 生
		主任主事	秦 健 太
		主任技能員	松 本 優
学芸調査室	企画主幹	小 田 和 利	学芸調査室長
	企画主幹	赤 司 善 彦	学芸調査室長補佐
	学芸研究班	企画主査	松 川 博 一
		技術主査	井 形 進
		技術主査	岡 寺 良
		主任技師	渡 部 邦 昭
		技師	日 野 綾 子
	普及班	参事補佐	齋 部 麻 矢
		技術主査	酒 井 芳 司
		指導主事兼事務主査	峯 大 志
	管理班	技術主査	加 藤 和 歳
		主任技師	小 林 啓
		主任技師	岡 田 諭
文化財調査室	企画主幹	吉 村 靖 徳	文化財調査室長
	企画主幹	伊 崎 俊 秋	文化財調査室長補佐
	調査文化財班	参事補佐	秦 憲 二
		参事補佐	小 川 泰 樹
		技術主査	坂 元 雄 紀
		技師	梶佐古 幸謙
	研究班	技術主査	小 澤 佳 憲
		技術主査	大 庭 孝 夫
		技術主査	下 原 幸 裕

②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長	杉光 誠		
委 員	副館長	飛野 博文	委 員	学芸研究班長 松川 博一
委 員	学芸調査室長	小田 和利	委 員	調査研究班長 小澤 佳憲

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 平成27年12月 福岡県条例第63号
(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学

識経験のある者の中から任命する

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報が必要に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (平成27・12・25・条例第63号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1 (第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	200 円
	大学生・高校生	150 円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150 円
	大学生・高校生	100 円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3450円
	第4展示室	8350円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5170円
	第4展示室	12520円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額 (1時間につき)
会議室	380円
研修室1	380円
研修室2	380円
研修室3	380円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2 (第6条関係)

区分	金額 (1枚につき)
電子式複写 (白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48・2・20教育委員会規則第4号)

最終改正平成22・6・教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日
- 二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあつては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(利用の申込)

第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

(利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利

用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

(利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

(資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

- 一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。
- 二 資料館の管理上支障があると認められるとき。
- 三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

(利用制限)

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者
- 二 その他係員の指示に従わない者

(資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出しを受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

(損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

(寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

(寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

(寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館組織規則

(昭和47. 4. 1教育委員会規則第2号)

最終改正：平成23. 3. 教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。

技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の収受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の収納及び保管並びに税金及び右保証金等の保管

十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館協議会規則

(昭和60. 4. 1教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24. 3. 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○ 九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22. 6. 30福岡県規則第30号)

最終改正 平成28・3 規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除

(「以下「減免」という。))をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合

当該観覧に係る観覧料の全額

三 児童福祉施設(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)に入所又は通所している少年(同法第4条第3号に規定する少年をいう。

以下同じ。)が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児(同法第4条第2号に規定する幼児をいう。)又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額

五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後

- 期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障害者」と総称する。）の介護人が当該障害者とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該

(減免の申請)

第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。

2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障害者）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則（平成28・3・18 規則第15号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 平成 29 年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
平成 29 年 4 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで	306 日	24,254 人	79 人

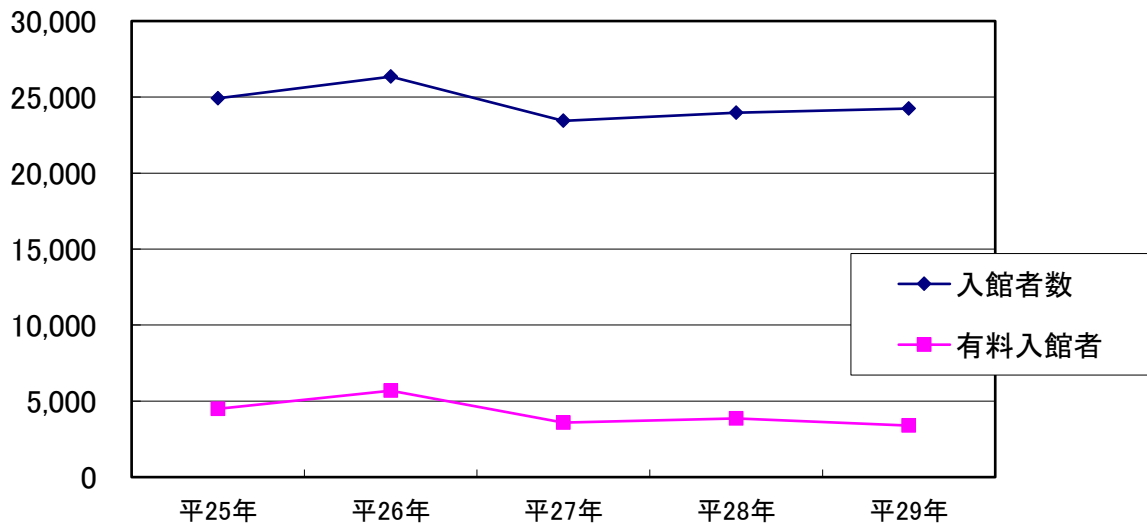
イ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人

年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館 者数	合 計 入 館 者 内 訳			1日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生 以下	
平 25	305	24,926	4,485	21,168	507	3,251	82
平 26	309	26,343	5,686	22,450	741	3,152	85
平 27	307	23,435	3,589	18,750	744	3,941	76
平 28	307	23,962	3,869	19,764	551	3,647	78
平 29	306	24,254	3,390	19,871	761	3,622	79

ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,260 点
歴史資料 111,884 点

< 図 書 >

購 入 4,744 冊
寄 贈 167,900 冊

4 日 誌 抄

年 月 日	内 容
平成 29 年 3 月 22 日 (水)	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくりー」(～7 月 30 日 (日)) パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016-2017」(～6 月 18 日 (日))
4 月 1 日 (土)	西鉄レールあんどハイク
2 日 (日)	桜コンサート
25 日 (火)	特集展示「船原古墳出土甲冑・ガラス装金銅製辻金具」(～6 月 18 日 (日))
29 日 (土)	九歴ボランティアイベント「おりがみでカブトを作ろう！ぎっちゃんをやってみよう」
5 月 3 日 (水)	小郡高等学校琴部演奏会
16 日 (火)	パネル展「ユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』」(～7 月 23 日 (日))
24 日 (水)	文化財安全パトロール
30 日 (火)	特集展示「骨を蔵(おさ)めるー古代・中世の火葬骨壺ー」(～7 月 23 日 (日)) 特集展示「懐かしの旧福岡県庁」(～7 月 23 日 (日))
6 月 18 日 (日)	大宰府史跡蔵司跡現地説明会
27 日 (火)	埋蔵文化財安全衛生講習会
7 月 2 日 (日)	きゅうれき七夕イベント
25 日 (火)	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり 5～筑豊本線・日田彦山線編」(～10 月 1 日 (日))
8 月 3 日 (木)	大宰府史跡調査研究指導委員会 九歴ボランティアイベントこども組紐教室
5 日 (土)	特別展「霊峰英彦山ー神仏と人と自然とー」(～9 月 24 日 (日))
6 日 (日)	特別展開催講座「山伏が語る峰入り」
18 日 (金)	こども歴史教室
20 日 (日)	特別展開催記念講演会「英彦山の山岳信仰と修験道」
29 日 (火)	九州歴史資料館協議会
9 月 2 日 (土)	ナイトミュージアム in きゅうれき 夏
10 日 (日)	文化財めぐりバスツアー「霊峰英彦山」
16 日 (土)	教員のための博物館の日 in 九歴
24 日 (日)	特別展開催記念茶会(小郡市文化協会共催)・添田町物販
26 日 (火)	企画展「発掘成果展 2017 五ヶ山～山のくらし、いのり、そして埋蔵銭～」(～12 月 24 日 (日))
10 月 3 日 (火)	パネル展「日本列島の城」(～12 月 17 日 (日))
7 日 (土)	企画展「大宰府みどころ展 Part3 大宰府を探索サイエンス」(～12 月 3 日 (日)) 企画展「福岡県の城ー戦国乱世の城から幕藩体制の城へ」(～12 月 3 日 (日))
21 日 (土)	発掘速報展報告会
24 日 (火)・25 日 (水)	大宰府史跡調査研究指導委員会
11 月 3 日 (金)	企画展開催記念講演会「文化財の保存科学 100 年」
5 日 (日)	企画展開催記念講演会「福岡県の城郭研究の歩み」
19 日 (日)	アクロスミュージアムコンサート

年 月 日	内 容
12 月 8 日 (金)	甘木歴史資料館連携展示「博多絞り」(～2月4日(日))
16 日 (土)	冬の組紐教室
17 日 (日)	「キャンドルを作ろう」(三沢遺跡の森を育む会共催事業)
19 日 (火)	パネル展「女男石護岸施設と筑後川の堰」(～3月11日(日))
26 日 (火)	企画展「炭鉱と学校の昭和史」(～3月4日(日)) パネル展「福岡県の名園をめぐる旅」(～3月4日(日))
平成30年1月5日(金)	ナイトミュージアム in きゅうれき 冬
14 日 (日)	大宰府史跡蔵司跡現地説明会
2 月 10 日 (土)	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」(～4月11日(水))
25 日 (日)	「折り紙でおひな様・組紐」
3 月 3 日 (土)	子どもイベント「木うその絵付け体験」
4 日 (日)	イベント「神話の世界Ⅱ～朗読・神楽×太鼓～」
6 日 (火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」(～9月2日(日))
11 日 (日)	子どもイベント「ランタン絵付け体験」
13 日 (火)	パネル展「筑紫地区文化財写真展」(～3月25日(日))
17 日 (土)	子どもイベント「手すき体験」
18 日 (日)	特別展プレ講演会「古代国家と道」
27 日 (火)	パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017－2018」(～6月17日(日))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属 コード 2120261
登録年度 3 0	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（平成29年度）

発 行 日 平成30年 7 月26日
 編集・発行 九州歴史資料館
 〒838－0106
 福岡県小郡市三沢5208-3
 T E L 0942-75-9575
 F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN
OF
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM
2017
CONTENTS

Preface	
1 2017 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1) Survey and Research	1
(2) Exhibition	19
(3) Item Available	31
(4) Study Support/Museum,school Cooperation	41
(5) Volunteer	46
(6) Dissemination/ Utilization	49
(7) Public Relations Activities	61
(8) Practice and Training Opportunities	63
(9) Published matter	66
(10) Interchange	67
(11) Conference and Meeting Facilities	68
2 Organization of Kyushu Historical Museum	69
(1) History	69
(2) Building and Grounds	71
(3) Budget	71
(4) Organization Chart and Staff	72
(5) Rules and Regulations	73
3 Statistics of Kyushu Historical Museum	80
(1) Museum Visitors	80
(2) Total Materials and Books	80
4 Outline of 2017 Activities	81